

特集

人間 嘉納治五郎を語る

目次

- グラビア …… 01 ～ 02
- 新年のご挨拶 茗溪会理事長 江田昌佑 …… 03
- 年頭挨拶 筑波大学長 永田恭介 …… 04
- 謹賀新年 平成 30 年 今年もよろしくお願いたします …… 05
- 特集 人間 嘉納治五郎を語る
「第3回 教育のこと、天下これより偉なるはなし」
～教育者としての嘉納治五郎～ …… 06 ～ 12
- 筑波大学はいま …… 13
- 第 16 回茗溪会賞の紹介 …… 14 ～ 15
- 茗溪会 公開講座 藤原教授の英語のはなし 第 16 弾
「動詞の語形変化のなぞを探る」藤原保明 …… 16 ～ 17
- 茗溪・東西南北 …… 18 ～ 19
- 筑波大学トピックス～筑波大学の施設～ …… 20
- ヨットクラブ 55 周年 …… 21
- 桐の葉のつどい …… 22 ～ 23
- 茗溪学園だより …… 24
- 追悼録 …… 25
- 平成 29 年秋の叙勲 おめでとうございます …… 26
- 広報 …… 26
- 表紙のことば …… 26 ■ 編集後記 …… 26

茗溪



正月

2018

平成30年

no.1096



Juchheim
SEIT 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

ユーハイム®

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者様の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考えた食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っています。



はぐくむ、大切なことすべて
SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-17-10 シダックス新宿セントラルロード
TEL.03-6632-5052 (代表)

KAIT

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。



■工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科
臨床工学科

■創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

■応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科[管理栄養士養成課程]

■情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

■看護学部

看護学科

理事長 中部謙一郎

常務理事 河野 隆二(S47農)

監査室 矢野 正人(S53院修 農)(神奈川茗溪会 会長)

教職センター 大畑多津雄(S52理 数)(同 副会長)

教職センター 望月 正大(S51理 数)(同 副会長)

早期学生支援室 掛原 豊(S54農林学類)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

第16回 茗溪会賞顕彰式

筑波大学において 平成29年11月25日 (P.14～15参照)



特集

人間 嘉納治五郎を語る

(第3回) 教育のこと、天下これより偉なるはなし～教育者としての嘉納治五郎～



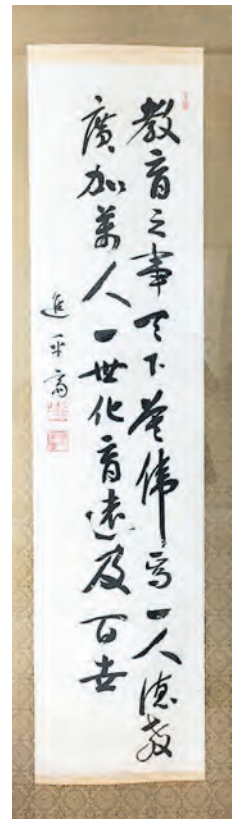
洋装の嘉納治五郎



東京高等師範学校正門 (御茶の水)



左から 茗溪会理事長 江田昌佑さん
筑波大学教授 真田 久さん
茗溪会理事 日本体育大学教授 阿江通良さん



一世化育の書



被災地の再生のために
河津桜植樹活動を続ける
[おだか千本桜プロジェクト]



外国人支援と国際交流活動を続ける
[ボランティアグループ「虹の会」]



居場所を求める子どもたちに寄り添う
活動を続ける
[KAKECOMI]



盆踊りを通して地域との交流活動を続ける
[盆LIVE 2017]

茗溪会賞（社会貢献活動功労者）第16回顕彰から

（P. 14
～ 15参照）



視覚障害者に読書の喜びを伝えるために
点訳活動を行う東久美子さん



絵本の読み聞かせで食物アレルギーの
啓発活動を行う栗田洋子さん



フィリピン支援に取り組む今田勝さん



災害ボランティア活動に尽力する
米沢智秀さん

新年のご挨拶



一般社団法人 茗溪会
理事長

江田 昌佑

新年明けましておめでとうございます。全国会員の皆様のお健勝とご活躍を心から祈念いたします。

近年、自然災害が各地を襲う状況が続いています。被災された方々に心からお見舞い申しあげ、一日も早い日常への復帰を願ってやみません。

お正月は、希望に満ち、そして新しい計画を盛り込んだ向上の意気に燃える気概を感じさせます。

新しい年になり、二年半後に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて諸準備が急ピッチで進められることと思います。

先の64年東京オリンピックは、日本社会の戦後復興の成果として、また我が国将来の発展の基盤構築などをスローガンとして、オールジャパンの態勢で進行した覚えがあります。そして、当時のわれわれの日常も希望に胸を膨らませていた時代であったと記憶しています。

昨年、大会組織委員会事務総長の武藤敏郎氏は、東京

2020大会の意義について、新聞誌上を通して次のように語られました。「日本から発信される東京オリンピック・パラリンピックの価値とスポーツのストーリーは全世界に伝えられる。人生に感動を与え、社会をポジティブに変化させる。スポーツに留まらないスポーツの価値を、人々の心にレガシーとして鮮烈に残すこと。」と述べています。意義のある東京大会として大成功させ、そして将来のグローバル社会に価値ある貢献ができるように、今またオールジャパンで力を合わせて頑張りたいたいものです。

昨年11月末、大会組織委員会は、オリンピック・パラリンピックに向けて、運営手法等の共有を図るため「パラリンピック協議会」の設置を決定しました。そのまとも役に同窓の岡崎助一氏（昭和43年体卒）が就任されています。氏の活躍が大いに期待されます。

今後、大会に関連して、益々多くの同窓の方々が、大会役員等、運営の多方面にわたって関与されることでしょう。片や、競技選手として、母校現役学生、卒業生、更に附属学校関係から多くの方々が出場されることとなりましょう。競技者の方々は、大会までより進化・向上のために最善の努力の日々が続きます。われわれは挙げて皆さんを応援しています。よい成果が得られますよう祈っています。

本年は、明治維新150年の節目に当たります。全国的に様々な周年事業が展開されることでしょう。

わが国の近代化は明治維新後から急速な変革を遂げました。明治5年、教育制度の整備を進めるため、母校は師範学校として、わが国最初の教育機関として設立されたことは万

人周知のことです。茗溪の創基と考えられています。

天皇陛下のご退位の日程が公表されました。程なく、わが国にとつても大きな皇位継承と改元の時期を迎えることとなります。

維新から150年、オリンピック・パラリンピックの2度目の開催、われわれにとつての茗溪創基150年は、ほぼ同じ時期に到来します。

この時期に、われわれ茗溪人が、先達の高邁な志や誇り高き茗溪会の伝統に思いを馳せ、はたまた、将来にわたつて本会の発展を期し、茗溪創基150周年の夢ある記念事業を興して、茗溪の仲間に関わり、より絆を深める互助事業として企画しようとする強い希望がはじかれています。本会にとつて活力の出るまことに嬉しいことです。

最後になりますが、全国茗溪会々員の皆様に対し、本会の益々の発展のために、ご鞭撻ご協力を切望してご挨拶いたします。



最近の茗溪会館

年頭挨拶



筑波大学長

永田 恭介

明けましておめでとうございます。
若溪会の皆様には、旧年中は様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

本学の建学における基本的な考え方は、「あらゆる面で開かれた大学」であり、「不断の大学改革」です。本学はこうした基本的な考え方を謳った「新構想大学」から、未来を想像し、未来を創造する知を生み、知を継承し牽引できる人材育成を目指して「未来構想大学」へとバージョンアップし、さらなる挑戦と冒険を重ねています。その中で、学生も教職員も伸び伸びと頑張っています。昨年の大学の活動の幾つかについてご紹介いたします。

教育に関しては、ディシプリン型の学問領域を大切にしながら、一方で数多くの学際融合型の斬新な教育プログラムを開発し提供してきました。現在、大学院課程の研究科・専攻というシステムから学生の視点に立脚した学位プログラムシステムへの全学的な移行に取り組んでいます。学士課程の学群・学類システムと同様な仕組みへの移行です。大学院教育では、昨年9月に2つの国際ジョイントディグリープログラムを開設しました。引き続き、国際的な通用性・信頼性の向上、国際競争力の強化、国際的に活躍できる人材の養成、学生・教員等の流動性の向上などに繋がるよう、更に大学一体となって努力して

参ります。

研究面に関しては、基礎科学および応用科学の両面において発展を続けています。おおよそ1年前に、東京大学と共同運用を始めたスーパーコンピュータであるOakforest-PACSは、運用開始時点で我が国における最速の計算能力を持ち、昨年はストレージ（日常の業務を行うサーバとデータを保管するストレージ、およびそれらの装置をつなぐネットワークを含めたシステム全体の構成）性能ランキングを示すTOP500リストにおいて、世界最高性能システムとして登録されました。また、昨年4月には、人工知能科学センター（CAIR）を設置し、人工知能に関する先進的研究を推進する体制を構築しました。加えて、Softexの中心概念は未だにはつきりとはしていませんが、本学は科学技術の社会への実装であると理解し、関連研究の推進を図っているところであります。特に、外部資金獲得で大きな成果をあげつつある産学官連携活動においては、技術移転が現実になり、それが社会経済の変革にまでつながること、すなわちイノベーションの創出に重点を置いて推進しているところです。

大学のグローバル化の促進についてもお伝えいたします。本学は、文部科学省による「スーパーグローバル大学創成支援」事業において、特に世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援する「タイプA」に採択されています。我々のスーパーグローバル大学事業の基本的なコンセプトは「世界中の教育研究に関わるリソースを活用する」とともに、「本学の研究教育コンテンツを世界に向けてオープン化する」というものです。この考え方を表すキャッチフレーズが、「教育研究のトランスボーダー化の推進」です。その中核をなすが、本学と国内外のパートナー大学と連携し、これらのキャンパスがあたかも一体化したかのように、組織や国のボーダーを超えて、学生や教職員・研究者が自由に教育研究交流できる環境を実現するCampus-in-Campus構想です。現在、ボルドー大学、国立台湾大学、カリフォルニア大学アーバイン校、サンパウロ大学、マレーシア工科大学、

ユトレヒト大学と提携し、様々な事業を展開しています。こうした取組が評価されたのか、昨年、大学ランキング付けで有名なTIMES HIGHER EDUCATIONが、世界の国際化された大学ランキングを発表しましたが、本学は我が国において2番目に国際化の進んでいる大学と評価されました。更に、本学と成熟してきたつくば（研究学園都市）の役割を世界に発信する機会として、国際的なイベントとして、平成31年からダボス会議の若手版として、世界の若手研究者や学生がつくばに集まり、社会と科学に関する問題を議論する「筑波会議」を開催することといたしました。

スポーツの話題としては、第29回ユニバーシアードにおいて金メダル7個を含め計23個のメダルを獲得したことを始め、蹴球部が天皇杯において、Jリーグのベガルタ仙台等プロ3チームを破り、ベスト16に進出したことなど、多数の種目で活躍しております。また、スポーツ庁、文部科学省が進めている大学スポーツの健全化・収益化に向けて、米国のNCAAやAthletic Departmentをモデルに研究等を進めています。更に、前身校である東京高等師範学校の校長でもあった嘉納治五郎先生のレガシーのもと、本学は、オリンピック・パラリンピックとも深い関わりを有しておりますが、来たる2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、関連した教育研究の推進のための拠点として、「オリンピック・パラリンピック総合推進室」を設置しました。今後は、附属学校をも含めた「オール筑波大学」として、選手としての参加のみならず、オリンピック精神に関わるグローバルな視点での教育、研究においても世界を先導するとともに、大会成功に貢献していこうという思いを強くしているところです。

東京茗溪會を源流とする貴会と同窓生諸兄には、ますますのご発展を祈念申し上げますとともに、上に述べてきましたような本学の様々な活動にご理解をいただくとともに、今年もご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

謹賀新年



一般社団法人
茗溪会

平成30年 今年もよろしくお願ひいたします

一般社団法人 茗溪会 理事長 江田 昌 佑 (昭和30年卒教大体) 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗溪会 副理事長 井 口 武 雄 (昭和40年卒東京教育大学法政) 三井住友海上火災保険(株) 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111	一般社団法人 茗溪会 副理事長 西 川 潔 筑波大学名誉教授・博士(デザイン学) (昭和44年教大構成 昭和46年院修美) 〒305-0031 つくば市吾妻3-1-1-109 e-mail: q.nishikawa@gmail.com
一般社団法人 茗溪会 事務局長 高 野 力 (昭和48年卒教大農木工) 大塚事務所長 室 岡 和 彦 (昭和44年卒教大数)(平成1年卒筑修教) 筑波事務所長 立 山 雅 博	一般社団法人 茗溪会 理事 日本体育大学 教授 教育学博士 阿 江 通 良 (昭和48年卒教大体育) 日本体育大学 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 TEL 03-5706-0826 E-mail: ae@nittai.ac.jp	一般社団法人 茗溪会 理事 筑波大学数理物質系 教授 新 井 達 郎 (昭和56年修筑博化) 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136
一般社団法人 茗溪会 理事 組織委員会 委員長 川 田 孝 一 (昭和39年卒教大総農科) “仲間の顔が見える地域ブロック代表者会議” 全国で計画的に実施しましょう! 〒194-0045 町田市南成瀬5-29-6 TEL 042-728-5423 連絡先 桜美林大学入試事務室 相談役 TEL 042-797-6196	一般社団法人 茗溪会 理事 株式会社 ユーハイム 代表取締役 会長 河 本 武 (昭和37年卒体育学部健康学科) 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-2-9	一般社団法人 茗溪会 理事 佐 藤 忍 (昭和60年卒筑博生物) 〒305-8572 つくば市天王台1-1-1 生命環境系 TEL 029-853-4672 E-mail: sato.shinobu.ga@u.tsukuba.ac.jp
一般社団法人 茗溪会 理事 守 屋 正 彦 (昭和51年卒芸) (昭和53年院修美) 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般財団法人 筑波学都資金財団 理事長 田 中 正 造 (昭和36年卒教大・健) 〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5152	学校法人 茗溪学園 茗溪学園中学校高等学校 国際バカロレアDPコーススタート 理事長 中 川 喜久治 校 長 田 代 淳 一 (昭和59年筑波大修士教育研究科・理科) 〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611
一般社団法人 茗溪会 宮城支部 支部長 小野寺 清隆 (昭和55年筑体育) 宮城県佐沼高等学校 校長 事務局長 佐々木 洋 (昭和60年卒筑二人間) 宮城県仙台二華高等学校 〒984-0052 仙台市若林区連坊1-4-1 仙台二華高校内 TEL 022-296-8101	一般社団法人 茗溪会 群馬茗溪会 支部長 坂 田 和 文 (昭和56年卒筑体) 事務局長 田 村 浩 之 (昭和60年卒筑体) 〒371-0805 前橋市南町4-35-1 TEL 027-221-4486	一般社団法人 茗溪会 山梨支部 支部長 山本 英樹 (昭和56年卒筑一自然) 山梨県立峡南高等学校 校長 事務局長 渡辺 和弘 (昭和60年卒筑二人間) 山梨県立山梨高等学校 教頭 〒405-0018 山梨県山梨市上神内川194 山梨高校内 TEL 0553-22-1621 ニュー美容を会場に、7月に総会・懇親会、12月に講演会・忘 年会を行っています。詳しくは事務局にお問い合わせください。
一般社団法人 茗溪会 岐阜茗溪会 支部長 大 橋 則 雄 (昭和57年卒筑二人間) 庶 務 増 田 智 至 (平成3年卒筑一農林) 〒503-0212 安八郡輪之内町中郷新田427 TEL 0584-69-3753	一般社団法人 茗溪会 京都茗溪会 支部長 川 合 英 之 (昭和56年卒筑体) 事務局長 川 合 寛 明 (昭和59年卒筑体) 〒606-8421 京都市左京区鹿ヶ谷法然院町52-7 TEL 075-761-9241	一般社団法人 茗溪会 兵庫支部 支部長 中 野 憲 二 (昭和56年卒第一人文) 事務局長 林 啓 太 (昭和56年卒体育) 事務局(県立神戸高等学校内) 〒657-0804 神戸市灘区城の下通1-5-1 TEL 078-861-0434(代)

特集 人間 嘉納治五郎を語る

〔第3回〕

教育のこと、天下これより偉なるはなし

～教育者としての嘉納治五郎～



高等師範学校校長 嘉納治五郎

わが国では、1872年(明治5年)に最初の学制が公布されましたが、この学制は、初等教育と高等教育の整備に力点が置かれ、中等教育の整備は後回しになっていました。

しかし、明治30年代に入った頃からようやく中等教育の拡充が求められるようになり、中等学校教員の養成が大きな課題になってきました。

高等師範学校校長の職から離れていた嘉納治五郎が3度目の校長に就任するのはこのような時代でしたが、彼はそれまでの教員養成のあり方を抜本的に見直し、カリキュラムの改革を進め、体育・スポーツを重視した教育を行い、その後のわが国の中等学校教員養成のモデルとなるものを築き上げていくのです。

また、嘉納治五郎はわが国で最初に東アジアの国々からの留学生の受け入れにも積極的に取り組み、各国のリーダーを育てることに力を入れていました。

今回は、こうした数々の教育改革に取り組んだ嘉納治五郎の足跡をたどりながら、彼の教育に懸けた思いに迫るとともに、嘉納治五郎のレガシーを今日のわが国の教育にどう生かしていったらいいかを話し合っていました。

話し合っていたのは、元筑波大学副学長で現在は日本体育大学教授の阿江通良さんと筑波大学教授の真田久さん、そして茗溪会理事長の江田昌佑さんです。江田さんには話し合いの進行役もお願いしています。



【江田昌佑さんの略歴】

1955 東京教育大学体育学部卒業
1977 筑波大学教授
1992 筑波大学副学長
1996 鹿屋体育大学学長
現在、一般社団法人茗溪会理事長

【明治期のわが国の教育】

江田 明治維新の後、わが国では近代化を急ぐために教育制度の整備を進め、1872年(明治5年)に我々の母校の前身校である師範学校が設立されます。

この師範学校は、翌年には東京師範学校、1886年(明治19年)には高等師範学校、そして1902年(明治35年)には東京高等師範学校と名称を改め、わが国の教育の総本山として大きな役割を果たしていくことになりましたが、この高等師範学校の校長として、1893年(明治26年)から3期23年にわたって優れたリーダーシップを発揮されたのが嘉納治五郎です。

そこで、今回は、教育者としての嘉納治五郎がどのような教育をめざしたのかを探ってまいります。まず明治という時代は教育に何を求めていたかということから話を進めていきたいと思います。

(学校名については、これ以降、高等師範学校と東京高等師範学校は、ともに「高等師範」と表記します)

明治初期の教育は

初等教育と高等教育に重点が置かれていた

阿江 明治という時代になって、「わが国は世界に追いつかなければならない。追いつくためには工業を振興し、国を富ませなければならない。そのためにはエリートを養成するための高等教育と国民の教育水準をあげるための初等教育が大事だ」というところからわが国の教育はスタートしました。

しかし日清戦争が終わり、明治も30年代に入ると、「高等教育と初等教育だけではだめだ。中等教育の充実をはかる必要がある」という声が高まり、中学校・実業学校・高等女学校などの中等学校が増設されるようになり、そこで教える教員の養成も急務となってきました。

ところがその頃のわが国の学校教育は、小学校では教授法の研究でも実際の指導技術でもかなり高いレベ

ルに達していたのですが、中等学校の教員の力量はまだ低いままにとどまっていたため、嘉納治五郎は優秀な教員を養成するためにさまざまな取り組みを始めるようになります。

それは、カリキュラムの改革であり、中等教育の研究です。



【阿江通良さんの略歴】

1973 東京教育大学体育学部卒業
1982 筑波大学体育学専攻科博士課程修了
2000 筑波大学体育学系教授
2008 筑波大学体育専門学群長
2012 筑波大学理事・副学長
2016 日本体育大学教授

【嘉納治五郎の教育改革】

高等師範学校のカリキュラムをめぐって
井澤修二と激しく衝突

阿江 嘉納治五郎が2度目の校長を退いた後の校長には井澤修二が就いていましたが、彼は「教員は教える技術を重視すべきである」という考えで、嘉納の「教える技術はもちろん重要だけれども、教員は学科に対する専門的知識をもち、その上に教える技術を身につけなければならない」という考えと激しく衝突していました。

そのため、嘉納治五郎は1901年に3度目の高等師範の校長になると、直ちにカリキュラムの改革に着手するのです。

真田 嘉納治五郎はカリキュラム改革を進めるにあたって、教職に関する科目を削り、教科に関する専門科目を増やしています。

嘉納がなぜ教科に対する専門科目を増やしたかと言



【真田 久さんの略歴】

1979 筑波大学体育専門学群卒業
1981 筑波大学大学院体育研究科修了
2008 筑波大学体育学系教授
2012 筑波大学体育専門学群長
専門は、スポーツ人類学・嘉納治五郎の研究

いますと、実は高等師範の出身者の学力が帝国大学の出身者の学力に比べて劣っているという評判を克服するためでした。もちろんこれは教える技術を軽視したということではありません。

嘉納治五郎は「帝国大学の学生にも負けない教科の専門的な力を身につけさせる。その上で教育の実践的な技術をも身につけさせる」という、教科の専門科目と教職科目の両立を目指してカリキュラム改革を進めたのです。

江田 嘉納治五郎はこうしたカリキュラムの改革を進めるだけでなく、高等師範に「中等教育研究会」を組織し、自ら会長となって、中等教育の実践研究にも力を入れていきます。

その頃、文部省では中等学校の増加に対応するために教員の数を整えることに汲々としていましたが、嘉納治五郎は「それではだめだ。実践力のある質の高い教員を育てなければならない」と主張し、文部省とも意見が対立していたようです。

真田 高等師範の校長を2度もやめている原因もそこにあつたのではないかと思われれます。それだけ、教育に対する信念や情熱があつたということではないでしょうか。

高等師範では文科の学生も理科の学生も
体育が必修であつた

江田 高等師範では、文科・理科の専門分野にかかわら

ず、すべての学生に対して体育を必修させていましたが、これも嘉納治五郎が行った重要なカリキュラム改革の一つではなかったでしょうか。

真田 私もそう思います。高等師範で基礎科目の中に体育の科目を位置づけ、体育を専門とする学生だけでなく、文科の学生にも理科の学生にも体育の授業を受けさせたということは、私は嘉納がやった教育改革の中でも、一番大きな改革ではなかったかと思っています。

この改革により、高等師範では文科や理科の学生も長距離走とか陸上大運動会とか水泳実習をやるようになります。

そして高等師範の卒業生が地方に就職しますと、必ず伝達講習会が開かれて、水泳や長距離走の教育効果が伝えられ、そこには県の教育委員会の人たちも聞きに来ていて、学校での体育がどんどん広まっていったのです。

3年制の体操科を4年制の体育科へ引き上げた

真田 もう一つ、嘉納治五郎の行った教育改革で大きいのは体育科の設置です。

当時、高等師範は文科と理科の二つの学科から成り立っていて、体育については教員が不足する場合に臨時に設置される体操科が置かれていました。

しかし体操科は3年制ですから、やはり体操科の教員の立場は低いわけです。校長にもなりにくい。

そこで嘉納は、体操科を文科や理科と同じ4年制に引き上げるために、中等教育改革の流れに合わせて、体操科の中味を学問的にも高めて、体育科の設置を文部省に認めさせていったのです。

そして体育科では、体育の実技だけでなく、体育理論も解剖・生理・衛生もわかる、その上に心理学や論理学、さらには国語や漢文、英語や歴史などを学んで、幅広い知識を身につけた優秀な人材を育てていくことになるのです。

「校友会」を組織し、課外活動を奨励した

真田 それから、嘉納治五郎の行った教育改革で忘れてならないのは「校友会」を組織し、高等師範の学生は「校友会」に入っており、いろんな課外活動をすることを奨励したことです。

この「校友会」というのは、運動部の活動が中心になりますが、もちろん文化的な活動でもいいのですが、「学生が校友会で自主的な活動を行うことは将来の指導法を身につける貴重な経験になる」という嘉納の考えに基づいて、1901年に嘉納が高等師範の3度目の校長になった時に設立したものです。そして嘉納治



校友会秋季陸上大運動会(1904年)

五郎は自ら「校友会」の会長となつて学生たちに校友会での自主的な活動を奨励しています。

そして校友会に入つて、体育やスポーツあるいは文化的なさまざまな課外活動に取り組んでその教育効果を知った卒業生たちは、全国の中等学校で課外活動を広めていくのです。わが国の中学校や高等学校ではいままも課外活動が盛んに行われていますが、その背景には嘉納治五郎が始めた高等師範の「校友会活動」があったのです。

オリンピックで活躍する金栗四三は文科の学生であつた

阿江 私も、嘉納治五郎が高等師範で、体育・スポーツを体育専攻の学生だけでなく文科や理科の学生にも必修させたことは、特筆すべきことだと思います。

嘉納のそういう教育方針により、体育以外の専門分野の学生の中から、わが国の体育・スポーツの振興に大きな功績を残した人材がたくさん輩出しています。マラソンの金栗四三は、その代表的な人物ではないでしょうか。

江田 金栗四三は、体育の専門ではなく地理が専門の学生でしたが、高等師範の長距離走で抜群の成績を上げていた金栗は、1912年(明治45年)にストックホルムで開かれた第五回オリンピックにわが国最初のオリンピック代表選手として、選手団の団長であつた嘉納治五郎とともに参加。この時は、暑さのために途中棄権してしまいましたが、その後も世界記録を樹立する活躍をして、第7回のアントワープ大会、第8回のパリ大会にも代表選手として出場しています。

そして、この金栗四三の業績としてもう一つ忘れてならないのが、箱根駅伝を創始したことです。現役を引退した金栗は後輩の野口源三郎と相談して、学生の長距離走競技を構想します。そして1920年(大正9年)に、高等師範、明治大学、早稲田大学、慶応義塾大学の四校で第1回の箱根駅伝を実施するのですが、その後この大会は大学や専門学校の間で人気が高まり、わが国の長距離走競技の普及に大きく貢献していくのです。

ちなみにこの大会の優勝校は高等師範で、その後も高等師範・東京文理科大学・東京教育大学・筑波大学と続く母校は箱根駅伝の伝統校として、歴代6位62回の出場を誇っています。



オリンピック代表になった金栗四三

附属小学校の特別学級で
体育を中心とする教育を推進した

真田 これは最近になってわかったことなのですが、1908年(明治41年)、附属小学校に知的障害を持つ子どもたちの特別学級が設置され、体育を中心とした教育が行われるようになりました。

その頃のわが国の知的障害を持つ子どもたちの教育は、知識の面でも健常者に近づけようとするものでした。ところが附属小学校の特別学級では「知識を教えるよりも、障害があっても社会で自立できる人間を育てよう、そのためには体育が重要である」という考え方にもとづいて、筋肉運動として「手つなぎ鬼」「鬼ごっこ」「綱引き」「かけ足競争」「自由遊戯」「歌いながらの運動」を、そして注意力や集中力を身につけさせるために「玉なげ」「ボール落とし」「ボール渡し」「バスケットボール」「石けり」「おはじき」などの体育を重視した教育が行われるようになったのです。

附属小学校のこのような教育は、嘉納治五郎の考え方がもたらなっていました。これは嘉納がI O C委員になる前のことであり、パラリンピックもまだ始まっていませんから、嘉納治五郎は障害者の教育でも世界のトップランナーであつたといえるのではないでしようか。

この例を見てもわかるように、嘉納治五郎は、留学生に対しても女性に対しても、知的に障害がある人に対しても、体育やスポーツは役に立つ、だからその価値を体得させたいという強い思いがあつて、体育やスポーツを礎に置いた教育を重視していたのです。

阿江 嘉納治五郎は若い頃、体が弱いためにいじめられることが多く、よく痲癩を起していたらしいのですが、柔道を始め体ができてくるといじめられることもなくなり、痲癩も押さえられるようになったと述べています。そういう自分の体験から、身体運動をきちんとやることにより人間は成長できるということを体得されたのだらうと思います。

それから、アメリカやイギリスの学校では、最近に

なってスポーツよりも基礎的な身体運動をきちんと教えようという動きが強くなってきています。学校体育では世界の先頭を走っていたわが国は、いまアメリカやイギリスに追いつかれ、追い抜かれようとしています。

嘉納治五郎が生きていたら、「お前らもつとっつかりせい」と叱られるかもしれません。

【嘉納治五郎の留学生教育】

江田 ここまで嘉納治五郎の教育改革は何を目指していたのかを話し合ってきましたが、嘉納はアジア各国、特に中国（清国）からの留学生の受け入れにも積極的に取り組んでいましたので、次に嘉納治五郎は留学生に対してどのような教育を行っていたのかを見ていきたいと思います。

嘉納治五郎が設立した宏文学院は多くの留学生の受け入れ先となった

阿江 日清戦争の後、改革の必要性を感じた中国（清国）は、「近代化を成功させた日本に学べ」と、数多くの留学生をわが国に派遣するようになりました。その留学生の最初の受け入れ先となったのが嘉納治五郎でした。

1896年（明治29年）、嘉納は神田三崎町に塾舎を設け、清国から13名の留学生を受け入れ、高等師範の教授たちの協力を得ながら、日本語と普通科の教育を始めます。

その後、清国からの留学生が数多くやってくるようになりますと、嘉納は牛込区に私費を投じて「弘文学院」（のちに宏文学院に名称変更）を設立し、日本語教育と中等学校レベルの普通教育を行いました。

そして優秀な学生に対しては高等師範や帝国大学に進学させて、高いレベルの教育を受けさせています。

ただ留学生の受け入れではいろいろご苦労があったようで、折角受け入れたのに勉強に身が入らずに遊郭

のようなどころに逃げ込んだりする学生もいて、嘉納はこういう学生に対しても一晩かけて説得したり、いろいろ相談にのっていたようです。

これはまさに嘉納のちに強調するようになる「自己共栄」を自ら実践していた姿だったのではないでしょうか。

高等師範で学んだ学生の多くは母国に戻って教育の近代化に貢献した

阿江 では中国から日本に留学した学生は、帰国後どのような活躍をしたのでしょうか。

宏文学院を経て高等師範で学んだ留学生の多くは、帰国後に教育関係の仕事に就き大きな業績を上げていますが、その中の何人かをご紹介しますと、まず田漢さんが挙げられます。この方は高等師範の英語科で学び、帰国後は作家として活躍した人ですが、彼の作詞した「義勇軍行進曲」は後に中華人民共



嘉納と清国留学生 (講道館所蔵)

和国の国歌に採用されています。

それから北京師範大の学長を努め、後に文部大臣になれる范源濂さんも高等師範の卒業生です。

そしてもう一人、湖南第一師範学校で毛沢東に体育の重要性を教えた楊昌溶さんがいます。

毛沢東は学生時代に「体育の研究」という論文を書いているのですが、この論文には嘉納治五郎の名前が出てくるだけでなく、内容も嘉納の体育の考え方と同じであったといわれています。

グローバル化時代の留学生の受け入れについても嘉納治五郎から学ぶことが多い

江田 筑波大学には、いま世界中から20000人を超える留学生が来ていますが、ここまで嘉納治五郎の留学生教育を見てきて、私自身の現役時代を振り返ってみると、努力が足りなかったなと思うことが一つあります。

それは、筑波大学の課外活動に留学生をあまり参加させていなかったということです。

嘉納治五郎は高等師範で、留学生どうしのサッカー大会とか、日本人と留学生がグループをつくって運動会をやるとか、そういうことを校友会活動の中にきちんと位置づけていました。

グローバル時代を迎えた今だからこそ、留学生も一緒にあった課外活動が必要になってきているのではないのでしょうか。

阿江 まったく同感です。実は留学生たちもそれを求めているのです。ただ一緒に課外活動をやりたいと思っても、どこへ行ったらいいかわからないと言うのです。

それで私は、筑波大学を退職するときの置き土産として、「スポーツデイなどでチームをつくるときには必ず留学生を一人入れるというようなルールをつくらどうか」という提案をしました。

スポーツデイでは、留学生と日本人の混成チームで試合をするというようなこともやったらいいと思うのです。

留学生が増える時代になり、我々は嘉納治五郎の留学生の受け入れ方や留学生の教育について、もう一度学びなおす必要があるのではないかとあらためて感じています。

留學生がますます増える時代になり、我々は嘉納治五郎の留学生の受け入れ方や留学生の教育について、もう一度学びなおす必要があるのではないかとあらためて感じています。

留學生がますます増える時代になり、我々は嘉納治五郎の留学生の受け入れ方や留学生の教育について、もう一度学びなおす必要があるのではないかとあらためて感じています。

留學生がますます増える時代になり、我々は嘉納治五郎の留学生の受け入れ方や留学生の教育について、もう一度学びなおす必要があるのではないかとあらためて感じています。

留學生がますます増える時代になり、我々は嘉納治五郎の留学生の受け入れ方や留学生の教育について、もう一度学びなおす必要があるのではないかとあらためて感じています。

留學生がますます増える時代になり、我々は嘉納治五郎の留学生の受け入れ方や留学生の教育について、もう一度学びなおす必要があるのではないかとあらためて感じています。

【高等師範学校の大学昇格運動】

江田 1919年（大正8年）に入りますと、高等師範で

学生や教職員そして卒業生も巻き込んだ大学昇格運動が起こります。嘉納治五郎はこの大学昇格運動では大

変悩んだようですが、大学昇格運動はなぜ起こったのか、そして校長として嘉納治五郎はこの運動にどう対処していったのかを振り返ってみようと思います。

高等師範で、なぜ大学昇格運動が起こったのか



東京高等師範学校正門(大塚 1931年)

真田 1918年(大

正7年)、臨時教育会議の答申にもとづいて大学令が公布されて高等専門学校や医学の専門学校が大学に昇格することになり、東京高等商業学校は東京商科大学(現一橋大学)に、東京高等工業学校は東京工業大学に昇格するという動きになってきました。

ところが、高等師範は大学昇格の対象から外れていたために、1919年(大正8年)の12月、教職員・学生そして卒業生の団体である茗溪会が結集して「高等師範こそ大学に昇格すべきである」という運動を起こしたのです。

このときに高等師範の関係者が大学昇格運動を起こした理由を書いているのですが、これが素晴らしい。その理由の一つ目は、「教育者の養成に大学なきは、国家が教育を尊重しているという主旨に反しているのではないか」というもの。二つ目は、「物質文明の大学の増加は見えるが、先進文明の大学も増やすべきである」というものです。

高等商業学校や医学専門学校や高等工業学校はまさしく物質文明の大学ですから、この主張は的を射たなかなかのものだと思います。

そして、このような大学昇格運動の中から生まれたのが「宣揚歌」なのです。

一、桐の葉は木に朽ちんより
秋来なばさきがけ散らん
名のみなる廃墟を捨てて
醒めて立つ男の子ぞ我等

二、日の本の教えの庭に
いと高き学び舎ありと
人も知る茗溪の水
よし涸れよ濁さんよりは

(作詞 大和資雄)

大学昇格運動で苦悩した嘉納治五郎は、最後は「君たちと行動を共にする」と宣言する

真田 高等師範の大学昇格運動が起こった時、嘉納治五郎は臨時教育会議の委員として大学令の作成にも参画しており、高等師範の大学昇格に対しては政府内でも異論が多かったため、嘉納は大学という名前には拘泥せずに「専攻科の拡張と内容の充実」「研究機関の設置」「附属高等学校の附設」という名をすてて実をとるという方向に舵を切っていました。

しかし、1919年(大正8年)の12月5日、教職員・学生・茗溪会による「三角同盟」が結成され、大学昇格運動は一段と激しさを増すようになり、嘉納は名をすてて実をとるというこれまでの考え方を撤回して、宣揚歌が歌われる中で「君たちと行動を共にする」と宣言するのです。

そして、12月15日、中橋文部大臣が「大学を特設したいという希望に対して考慮する」という声明を出して、高等師範の大学昇格運動は一段落します。

だが嘉納が臨時教育会議で出した答えを撤回して高等師範の大学昇格運動に取り組んだことは、政府に反旗を翻したことになりますから、翌年の1月16日に辞表を提出し、高等師範の校長を辞職するという事になりました。

1929年(昭和4年)、東京文理科大学が創立され、高等師範は大学の附設となって新たなスタートを切る

ことになりましたが、嘉納はこの大学にはどうも満足していなかったようです。

それは、嘉納治五郎が本当に求めていたのは、「品位もあり実力もある教育者を出し、又研究機関を設けて、道徳教育は勿論、各般の教育につき研究調査をして教育の改善に資する師範大学」であったからです。

しかし、高等師範で学んだ留学生たちの多くは、母国に戻って教育の世界でリーダーとなり、嘉納が求めていたような師範大学をつくっています。

先に紹介した范源濂さんもその一人で、東京高等師範学校の制度をそのまま取り入れて北京高等師範学校をつくり、その11年後には北京師範大学をつくって、中国で嘉納治五郎の目指した教育を実現したのです。

【今日のわが国の教育に対する提言】

江田 ここまで高等師範の校長として嘉納治五郎が取り組んできた数々の教育実践や教育に懸ける思いなどを見てきましたが、では私たちはそういう嘉納のレガシーを今日のわが国の教育にどのように生かしているかという点に話を進めていきたいと思います。

嘉納治五郎こそ本物の教育者である

阿江 嘉納治五郎というと世間的には柔道家というイメージで受け止められていますが、私は「嘉納治五郎こそ本物の教育者であり、高等師範の校長としても、また教育行政の世界でも多大な貢献をした人物である」ということをもっと多くの人に知ってほしいと思っています。

今回のタイトルとなっている「教育のこと、天下これより偉なるはなし」は嘉納治五郎の教育に懸ける思いを表す有名な言葉です。世界のどこへ行っても通用する言葉です。私たちは嘉納のこの思いを重く受けとめていかなければならないと考えています。

それから、私の専門の体育の分野で嘉納治五郎の考えをどのように生かしているかという点

について、ヒントになるお話しをしておきたいと思
います。

それは昨年の日本体育学会でユネスコから招いたア
ンジェラ・メロさん（倫理・若者・スポーツ部長）と
いう方が講演をしたのですが、夕食のときに、「フィジ
カルエデュケーション」と「フィジカルアクティビテ
イ」と「スポーツ」はどう切り分けるのかと質問した
ところ、「そういう考え方はしないでください。一体の
ものとして考えてください」というのです。

それで「メロさんの考えは私たちの『体育』の考え



方と同じものですか」と聞くと「まさにそうだ。あな
たたちにはそんな言葉があるのに、なぜ切り分け
て使おうとするのか」と言うのです。

メロさんの話は嘉納治五郎の体育の考え方とまっ
く同じだったので。

**嘉納治五郎は、体育の価値を
すべての人にいきわたらせたいと考えていた**

真田 嘉納治五郎は1922年（大正11年）に講道館文化
会を創設し、この時に4つの宣言を出します。

これは個人と社会と世界に向けた宣言と言ってもい
いものですが、

一つ目は、心身を鍛えて有為な人間になろうという
もの。

二つ目は、社会にあつてはお互いが助けあい協調

しあつて生きていくべきであるというもの。

三つ目は、政治に対しては常に改革を怠らないよう
監視すべきであるというもの。これは、嘉納がこれま
で政治に相対してきて感じてきたことだろうと思いま
す。

四つ目は、世界に対してのものです。人種的な偏
見を取り去り、人類の文化の発展に寄与すべきである
というものです。

そしてこの4つの宣言はいまでもそのまま通じる重
要なメッセージになっていると思います。



ただ私は、この宣言を初めて読んだ時に感じたの
は、「この宣言はいったい何なのだろう。嘉納はなぜ
1922年という時にこのような宣言を出したのか」
この宣言を一体何人くらいの人が理解できたのか」と
いうことでした。

先ほど附属小学校の特別学級で体育を中心とした教
育を行っていたということを紹介しましたが、嘉納治
五郎には「体育の価値」というのはすべての人にあまね
くいきわたるものだ」という信念がありました。

また、嘉納は「国民体育」ということも考えていて、
これは「すべての世代に、お金のあるなしにかかわら
ず、年齢にもかかわらず、男や女ということにもかかわ
らず、運動のうまい下手ということにもかかわらず
に、スポーツをやらせたい」というものですが、そう
いう嘉納の考え方を世界で広めたいと思つた時に衝突
するのは、「あの人種はだめだとか、あの国は低レベル

でだめだ」というような人種的な偏見であると気づい
たのではないかと。

そして、こういう偏見は、国どうしの紛争になり、
戦争になることもある。だから、こういう偏見を打破
していけば、体育やスポーツの価値を人々にきちんと
理解させ、人類の財産として生かしていくことができ
るのではないかと考えたのだと思うのです。

そういうように考えると、この宣言は「体育やスポ
ーツは、そういう偏見をのりこえて、その役割を果た
さなければならぬのだ」という嘉納から我々に与え
られた遺言のようなものではないかと思えるのです。

嘉納は、雑誌「柔道」でも同じようなことを言っ
ています。「柔道を広め、他の国の人々が柔道を知れば、
日本のことをもっと知りたいと思うようになる。そう
いう人が増えれば、たとえ国どうしの紛争が起こって
も、それを和らげることができる」と。

こういう嘉納治五郎の残したメッセージを我々はど
うやって実現していくかを考えていかなければならな
い時を迎えているのではないのでしょうか。

2020年夏、

嘉納治五郎の目指したオリンピックを実現したい

江田 私も全く同感です。嘉納治五郎は、相手を尊敬し、
自分だけでなくお互いに人間として、心身ともに高め
あつていこうではないかと教えてくれました。

自他共栄の精神です。
あと2年半後には東京オリンピックが行われます。
オリンピックは、偏見をなくし、スポーツを通してお
互いが高めあうことのできる素晴らしい機会です。

嘉納が教育者としてまたIOCの委員としてオリン
ピックに求めたこと、やり残したこと、そのすべてや
ることはできませんが、私たち日本人はそこに向かっ
て努力していかなければならないのではないでしょ
うか。

【嘉納治五郎と茗溪会】

江田 私たちは季刊誌「茗溪」で、夏号から3回にわたって嘉納治五郎の業績を見てきましたが、今回が最終回ですので、嘉納さんと私たちの茗溪会との関係について少しお話ししておきたいと思います。



嘉納治五郎と茗溪会はどのような関係にあったのか

江田 高等師範の校長は制度的には茗溪会の客員という位置づけでしたから、嘉納治五郎も当初は客員（後に顧問）でしたが、嘉納さんは茗溪会が大好きで、茗溪会の諸会合には努めて出席され、茗溪会の発展のためにさまざまな形で尽力してくれました。

1903年（明治36年）に高等師範が湯島から大塚に移転した際にも、「茗溪会の事務所も大塚に移ったかどうか」と言って、高等師範の構内に事務所を移すことを勧めてくれ、移転申請に対しても即決で許可を出してくれています。そして、新しい茗溪会の事務所は1906年（明治39年）に完成するのです。

その後、会員から泊まる場所が欲しいという声が出てきて、1911年（明治44年）には事務所のそばに宿泊室11室を擁した樂友舎が造られますが、この時にも嘉納さんは大変な尽力をしてくれたと聞いています。

私たちは嘉納治五郎の「茗溪会」に対する思いをきちんと受け止めているだろうか

江田 1902年（明治35年）、行政改革のために、「校友会」と「茗溪会」を合併させようという話が出てきました。高等師範の中には合併してもいいという声もあったようですが、この話は「校友会と茗溪会は各々別に発展するようお願い補助しよう」ということで決着しました。私は、この合意には、校友会の会長であり、また茗溪会大好き人間であった嘉納さんの関与があったのではないかと推測しています。

茗溪会はそれ以来、合意の精神を一貫して守り、お互いに尊重しあい、お互いの領分を侵さず、適切な立場で協調することを王道として歩んできました。その後母校は、時代が大きく移り変わる中で、「大学昇格問題」「戦後の学制改革」「新構想大学化と筑波移転」など幾多の難しい課題に直面し、それを乗り越えてきましたが、茗溪会はいつも合意の精神に基づき、大学に対して有意義な貢献をしてきたと思っています。

喜寿の祝いに嘉納治五郎像をつくりました

江田 茗溪会では、嘉納さんの功勞に対して謝恩の意を表することが長年の願いでした。そのため、嘉納さんの喜寿の祝いに寿像をつくらうということになり、嘉納さんの最初の学生で、当時茗溪会の理事であった峰岸米蔵が委員長となって、全国の茗溪会員および母校の教職員に呼びかけて「嘉納先生教育功勞記念事業」が進められました。

そして、1936年（昭和11年）の11月28日に、朝倉文夫さんが製作した嘉納治五郎像が大学構内に設置され、除幕式が行われました。

この嘉納治五郎像は第2次世界大戦の時に供出されてしまいました。多くの会員から再建したいという声が高まり、1958年（昭和33年）、当時の茗溪会副理事長であった野口源三郎が発起人となり、母校の占



占春園の嘉納治五郎像

春園に前と同じ嘉納像が設置されました。また、2010年（平成22年）12月には、嘉納治五郎の生誕150年を記念して、筑波大学によって、占春園の嘉納像と同じものが大学会館前広場に設置され、嘉納治五郎はいつも茗溪に学ぶ学生たちのシンボルとなっています。

江田 私たちは、この3回のシリーズで、I O C委員として活躍する嘉納治五郎、柔道を創始した嘉納治五郎、そしてわが国の教育の近代化と優れた教師を育てることとに生涯を奉げた嘉納治五郎の姿を見てきました。

また嘉納治五郎は、常に国際的な視野で未来を見据えて、わが国の果たすべき役割についても、先駆者として大きな足跡を残していることも知りました。

いま、わが国は、世界のグローバル化の進展により、経済も外交も、そして教育も、大きな改革が求められています。そういう時代だからこそ私たちは、国際人としてまた教育者として活躍した嘉納治五郎の精神を正しく学び、受け継いでいく必要があるのではないのでしょうか。

阿江さん、真田さん今日はありがとうございました。そして第2回で嘉納治五郎の目指した柔道について熱く語っていただいた山口香さん、ありがとうございました。

筑波大学は今

松本正幸教授が「つくば奨励賞(若手研究者部門)」受賞、「2つのドーパミン神経システムとその神経回路基盤」に関する研究が評価

医学医療系の松本正幸教授が、「第28回つくば奨励賞(若手研究者部門)」を受賞しました。この賞は、茨城県内において顕著な研究成果を収め、今後の活躍が期待される40歳以下の研究者に贈られるものです。11月21日につくば国際会議場で茨城県科学技術振興財団主催の授賞式典が開催され、江崎玲於奈賞、つくば賞とあわせた表彰式および受賞者による記念講演が行われました。

ドーパミン神経細胞は「報酬」を得るための学習や意欲に重要な役割を担っていますが、そのメカニズムは不明でした。そこで松本教授は、中脳に分布するドーパミン神経細胞から前頭前野に伝達される神経シグナルに注目しました。その結果、報酬が得られない時にドーパミン神経細胞活動が抑制されるのは、脳の中心部にある外側手綱核という部位が興奮することによる、すなわち、外側手綱核がドーパミン神経の抑制性応答の起源であることを突き止めました。



さらに、ドーパミン神経細胞が、「報酬」に加えて「運動・認知機能」に関連した情報も伝達することを見だし、報酬シグナルと運動・認知シグナルを伝達するドーパミン神経細胞は、それぞれ中脳の異なる領域に分布していることを明らかにしました。これらの成果が、「2つのドーパミン神経システムとその神経回路基盤」として、この度の受賞の対象となりました。

多様性を考える機会に ダイバーシティ Awareness Week 2017

10月2日から6日、社会における人の多様性について、楽しみながら考えるきっかけにしようと、本学初の試みとなる「ダイバーシティ Awareness Week 2017」を開催しました。

学内外16組織の協力で13のプログラムを実施。「東京2020パラリンピックに向けて」筑波大学ができること」ではバーチャルリアリティの研究者とパラリンピアン、「人工知能研究からみた身体障害者支援の未来」では人工知能の研究者と障害がある在籍生が公開ディスカッションをするなど、多彩な研究者・学生を抱える本学ならではの情報発信や意見交換が行われました。



キッズ・ユニバーシティの課外活動 ちよこつと理科(十国語・社会・算数)クラブリターンズ



10月29日、本学東京キャンパスにおいて、「ちよこつと理科(十国語・社会・算数)クラブリターンズ」が開催されました。毎年4月に筑波キャンパスで行われる「キッズ・ユニバーシティ」の課外活動として企画された、小学生向けの体験型学習イベントです。本学の強みの一つである教育学分野

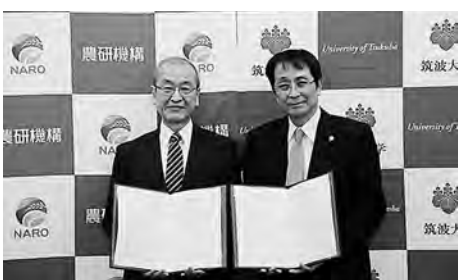
の知見を生かし、国語・社会・算数の要素も取り入れられました。あいにくの空模様にもかかわらず、300人近い子どもたちが参加し、いつもの学校とはちよつと違う様々な学習プログラムを楽しみました。

1日を通して、植物や昆虫の観察、光や波の実験、国語辞書を使ったワークシヨップ、かなの成り立ちを知るカードゲーム、プロの狂言師による演技体験、などなど、盛りだくさんのプログラムが並行して行われました。各プログラムを巡るスタンブラーにも、たくさんの子どもがエントリー。この日のために用意されたガチャマシンを回して、筑波大スペシャルグッズをゲットしました。



農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)との連携・協力協定を締結

11月27日、本学と国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(以下「農研機構」)の連携・協力協定に係る調印式が執り行われました。



農研機構と本学は、これまでも農業・食品分野での研究や連携大学院などの人材育成についての連携を行ってきました。本協定の締結によって、双方の強みを融合し、更なる共同研究の推進、研究者および教員間の研究交流などを促進することにより、我が国の農業・食品産業の活性化および国民の豊かさや健康の向上に寄与することを目指します。

第16回(平成29年度) 茗溪会賞(茗溪会の顕彰)

茗溪会は、平成十四年に創基百三十年を迎えたのを記念して、人材育成成功者として青少年の社会貢献活動功労者を対象とする顕彰事業を始めました。その後、一般の方々の社会貢献活動功労者、筑波大学の大学院生や学生の社会貢献活動や研究、芸術分野で優れた卒業作品を制作した筑波大学学生に対しても顕彰するようになりました。今年度(平成二十九年度)の一般の方々を対象とする茗溪会賞の顕彰式は、平成二十九年十一月二十五日(土)に、筑波大学の大学会館で行われました。



祝辞を述べる金保副学長

受賞者紹介 (順不同 敬称略)

..... 団体

無人の町だった小高区の

再生のために河津桜植樹活動

おだか千本桜プロジェクト

(会長 佐藤 宏光 (福島県))

福島県南相馬市小高区は、東日本大震災で海岸部の家々が津波で流された上、福島第一原発事故のため南相馬市の三つの区の中で唯一警戒区域に設定され、すべての住民が避難を余儀なくされた。五年四か月の間無人の町となり、二〇一六年七月に避難指示が解除された。何もなくなった町を、「いつか東北一の河津桜の里にしてやろう」という思いで「おだか千本桜プロジェクト」が発足した。堤防や道路沿いに桜を植えるには煩雑な許可申請や周辺住民の同意を得る必要があったが、根気よく難題をクリアし、協賛金を募り今日までに五一〇本の苗木を植えた。早咲きの河津桜は、再生への象徴となるだろう。

「国際都市つくば」で外国人支援と国際交流

ボランティアグループ「虹の会」

(代表 宮本 みち子 (茨城県))

つくば市は、研究者や留学生など約一四〇か国、約八千七百人の外国人が住む「国際都市」である。虹の会は、つくば市やその周辺地区に住む外国人の支援と国際交流を目的として、一九八一年の発足以来、外国人への生活支援や日本語講習などを行ってきた。日本語クラスでは、毎年百名を超える外国人が学んでおり、今までの累計で三千人が参加し、二千人がコースを修了したという。また、外国人に必要な生活情報冊子を提供し、インターネット上でも公開している。そのほかバザーによる生活必需品の提供、日本文化を紹介するイベントの開催など、

顕彰式では、本会の江田昌佑理事長の挨拶に続き、受賞者が紹介され、賞状と記念品が授与されました。次いで、筑波大学の金保副学長がご来賓として祝辞を述べられ、さらに西川潔選考委員長から選考経過が説明され、受賞者を代表して、国際交流ボランティアグループ代表の宮本みち子さんが挨拶されて顕彰式が終了しました。顕彰式の後、受賞者の皆さんを囲んで祝賀会が開かれました。受賞された皆さんからは、それぞれの活動の背景にある高い志が述べられ、「今回の顕彰でこれまでの地道な活動が高く評価されたことがとても嬉しい。このような活動を今後も引き続き着実に続けていきたい」という、社会貢献活動に対する新たな決意の言葉も述べられました。

つくば在住の外国人にとってはなくてはならない存在になっっている。

生きびらちを感じ

居場所を求める子どもたちに寄り添う活動

「KAKECOMI」 (代表 鴻巣 麻里香) (福島県)

代表の鴻巣さんが中心となり、二〇一五年、学校や家庭での生きびらちに悩む人たちに安心できる居場所を提供しようと、「駆け込み寺」と「コミュニティ」を意味する「KAKECOMI」が立ち上がった。東日本大震災後の福島では、被災や原発事故による避難で心に深い傷を負った人も多く、悩みを抱える人々の生きる環境は複雑になっている。そこで、精神保健福祉士など専門的なケアを得意とするメンバーからなる「KAKECOMI」は、困っている人々への相談サポートを提供する他、地域の子どもたちに無料で食事を提供し学習のサポートを行なう「まかないこども食堂たべまな」を毎週開催している。

盆踊りを通して

地域との交流を深めるための企画・実施

「盆LIVE2017」 (代表 喜瀬 沙織) (茨城県)

「盆LIVE2017」は、筑波大生が中心に二〇一五年に発足したTIACTの団体で、研究学園駅前公園で「盆踊り」と「バンド演奏」を掛け合わせたまったく新しい祭りを企画・実施している。二〇一七年九月は第三回目の開催となり、大盛況であった。つくばで生活する学生、留学生、地域の人々、外国人が、老若男女、国籍に関係なく、楽しみ関わり合えるようにとの想いから、曲目の選定や踊りの振り付けにはかなりの工夫を凝らしている。たとえば踊りは古典的なものからつくば市の地域の盆踊り、さらにはオリジナルなものを創ったりと、多くの時間をかけて形にしていこうという。

祭りの運営は地域の商工会やボランティア団体の方々

の協力を得て成り立っていることから、つくば市のイベントや地域のお祭りにはできるだけ関与し、地域との新たなきずなを深める活動も行っている。

個人

パソコン点訳を多数完成させ

読書の喜びを視覚障害者に伝える活動

東久美子 (岩手県)

好きな本を視覚障害の方々にも読んでほしいという強い気持ちから通信教育を受け、昭和五十七年最初の点訳「ゆうびんやさんのおくりもの」を完成させた。その後ボランティアで行った手打ちの点訳は、平成六年までの十年間で四十タイトルにも及んだ。更にパソコンの点訳ソフトが開発されるとすぐに研修を受け、平成二十五年までの十三年間に百タイトルのパソコン点訳を完成させている。現在までに校正した分量は、百三十頁で一巻として約二百巻にもなる。東さんが手がける点字は、挿絵の部分や漫画本、電化製品の説明書にまで及ぶ。根気のいることであるが楽しみながら行っているという。

絵本の読み聞かせで

食物アレルギーの啓発活動

栗田 洋子 (愛知県)

二〇一五年十二月アレルギー疾患対策基本法が施行され、アレルギーを正しく理解するよう努めることは「国民の責務」となった。次女が重いピーナッツアレルギーであった栗田さんは、娘の命を守るため小学一年生から五年生まで教室で付き添った。栗田さん自身が脳腫瘍を患い死を意識したとき、自分の代わりになるものを残してやらねばと考え、手術後二年をかけてカラフルなざり絵が目を引く最初の絵本を手作りした。二〇一四年には絵本「ピーナッツアレルギーのさあちゃん」(ポプラ社)を出版した。栗田さんは、この二冊を手を全国を回

っている。次女の体験を基に綴った絵本、そしてその読み聞かせには誰もが生きやすい社会を願う強い思いがにじむ。

貧しい人々に自活の道をと

フィリピン支援に奮闘

今田 勝 (神奈川県)

今田さんは、二〇〇七年からフィリピンの貧民層支援を始めた。とくにミンダナオ島では現地住民の食や生活改善の手助けを行い、「Jolo Mas (ロロ・マス…まさるおじさん)」の愛称で広く知られるようになった。今田さんは大阪大学卒業後、渡米して細胞学を学び研究者となったが、余暇を利用してステンドグラスの技法を学んだ。定年退職後つくば市に転居して工房を開き、アクセサリーなど小物を製作・販売してフィリピンの支援を行っていたが、現地での深刻な状況を改善するためには、現地の人々が自立、自活できる手段の構築が必要だと考えた。そこで、教会が運営する現地の職業訓練校でステンドグラスの技術を教えることにより、自立を促すことに取り組んできた。

数々の災害ボランティア活動に尽力

米沢 智秀 (茨城県)

米沢さんはつくばみらい市の曹洞宗高雲寺の僧侶で、様々なボランティア活動に参加した。平成九年のナホトカ号重油流出事故以来、中越地震や東日本大震災など、様々な自然災害に見舞われた地域にいち早く駆け付け、災害発生直後の対応に実績を残した。いわば災害ボランティアのスペシャリストといえる。平成十九年の能登半島地震では現地に四十日間滞在し、被災者の心に寄り添う傾聴活動を展開した。米沢さんは長年にわたる実績から、現地の社協などの関係機関と連携を取って、被災直後に必要な活動はもとより、長期的な支援が継続できるようにボランティアセンターの立ち上げと運営の支援を行っている。また、各種の啓発活動も行っている。

6 無変化動詞の共時的・通時的分析

Beatなどの無変化動詞と、acceptなどの規則動詞が並存している原因を探る場合にも通時的分析は有効であると思われる。そこで、『オックスフォード英語辞典』（以下OED²）の記述を参考にして、無変化動詞の語源と最初に引用された年代を調べてみた。その結果、分析対象の22例のうち、OEに由来する動詞は、過去形には-(e)de、過去分詞には-(e)dという接尾辞が付加されていた。これらの接尾辞の無強勢母音はOEの後期から弱化し始め、中英語（以下ME）末期までに消失した結果、語末にはttという子音連結が生じた（OE *settede* > ME *setd* > *sett*）。ただし、*cnyttan*, *lettan*, *settan*などは、OEですでに *cnytt*, *lett*, *sett* の段階に達していた。語末の子音連結のttはやがて単純化してtとなったが、その後、接尾辞-(e)d(e)が付加されることはなかった。一方、MEに由来する6語（*cast*, *cost*, *hurt*, *sprit*, *thrust*, *wont*）には新しい接尾辞-(e)dが付加されたと思われるが、この接尾辞は他の動詞の無語尾形との「類推」によって脱落したと考えられる。

ノ 無変化動詞と規則動詞の通時的相違

語源から判断すると、無変化動詞は語尾が消失した結果生じたと考えられる。そこで、規則動詞についても、OED²を参考にして初出の年代を調べた。その結果、規則動詞のうちOEまでさかのぼれるのはbleatのみであり、他はすべてME以降にフランス語やラテン語などから借用されたため、それ以前の接尾辞の母音の弱化や子音の脱落は受けなかったことがわかった。したがって、bleatを除く動詞は、無変化動詞のかつての語尾ttが脱落した後の1200年以降、フランス語やラテン語から借用されたと考えられる。ただし、OE起源のbleatが無変化ではなくて規則動詞である理由は不明である。

8 goの不規則な語形変化の原因

次に、go~went~goneという不規則な活用の原因は過去形のwentにあることは歴然としている。しかし、この問題を別語のwentによる「補充」として片付ける前に、goの語形変化をOEから現在までたどってみたい。今回はgoの直説法・過去の通時的語形変化に焦点を当ててみた。

GoのOEの不定詞 *gan*[ga:n]の語頭の子音[g]は現在と過去分詞に維持されているが、過去形の *eode*, *eodest*, *eodon* はすべて母音 *eo*[e:o]で始まっている。eodeは現在の *if*, *year*, *yellow*, *yard* などの語頭の子音のように、OE以前は[g]で始まっていたが、前舌母音の影響で[g]が[j]を経て[e]に変化したと考えられる。なお、goのMEの語頭の3に似た文字はgの筆記体に由来し、発音は[j]であった。OEのeodeはMEでは「わたり音」の[j]が生じて *yeode* となり、その後、アクセントの移動により、*yode* となった。イギリス南部では15世紀からeodeに代わって *wendan* 'turn, go' の過去形の *went* を用いるようになり、*yede*, *yode* は18世紀に廃語となった。

9 be動詞の語形変化

現在のbe動詞の語形変化は、長期にわたる複雑な変化の結果として、かなり単純化している。このことは、現在のbe動詞を語形で分類すると、①母音で始まる *am*, *are*, *is*、②w-で始まる *was*, *were*、③b-で始まる *be*, *been*, *being* の3通りに分けられることから明らかである。しかし、3通りの動詞には共通点がないことから、別々の動詞であった可能性がある。そこで、OEからMEを経て現代英語に至るまでのbe



動詞の変化をまとめると、次の8点となる。

- ① be動詞のみで表わせる時制は現在と過去であることから、*She will surely be a good mother* のような未来時制は助動詞 *will* の助けを借り、*When I arrived at the station, the train had already started* のような完了時制は助動詞 *have* がなければ表わせない。
- ② 法は直説法も仮定法も整っている。一般に命令形と呼ばれるのは法であり、一人に下す場合と複数の人に下す場合では語形が異なる。
- ③ OEのbe動詞の組織には現代英語にはないs-で始まる語のグループ (*sindon*, *sie*, *sien*) があり、4種類の動詞（すなわち、s-で始まる語群、母音で始まる語群 (*eom*, *eart*, *is*), b-で始まる語群 (*beo*, *bist*, *bith*, *beoth*), w-で始まる語群 (*wes*, *wesath*, *wesan*) が2つの大きなグループを形成している。
- ④ 現在の過去分詞の *been* に対応する語形がないなど、不完全な組織となっている。
- ⑤ MEでは、*be*, *beeth* という命令法の語形がbeの系列に一本化されている。
- ⑥ 現在分詞は *beonde* に代わって *being* が登場している。
- ⑦ be動詞は極めて簡素な組織になっている。
- ⑧ OEとMEになかった *are* (< ME *are* (n) < OE ノーサンブリア方言の *aron*) と過去分詞の *been* が出現し、*are* は2人称の単数と複数を兼ねるようになった。

10 まとめ

今回、動詞の活用の規則性に焦点を絞って、通時的観点から分析し、以下のような指摘を行った。

現代英語の動詞は過去時制に語尾-(e)dを付加する規則動詞と、それ以外の不規則動詞に区分されているが、前者はかつての弱変化動詞と一部の強変化動詞に由来する。ところが、通時的に分析すると、OEの強変化に由来する不規則動詞は現在でもかなり規則的に変化し、無変化動詞はOEの弱変化動詞までさかのぼれる。このように、かつての強変化・弱変化という区分とその特徴は現在もかなりの程度維持されていることから、現代英語の動詞の活用の特徴を理解するには、規則動詞・不規則動詞という区分より、強変化・弱変化と分ける方が好ましい。

その他、現代英語の動詞の組織における活用上の不備や疑問点もほぼ解消できた。このように、現代英語の語彙に関する情報を分析する場合、通時的情報は有益かつ不可欠であり、とりわけ語源の情報は無視できない。語彙には長い歴史の中で生じた綴り方・発音・意味・品詞などの情報が数多く込められていることから、それらを通時的に読み解くことによって、英語の言語特徴を深く理解することができる。

藤原教授の英語のはなし 第16弾

「動詞の語形変化のなぞを探る」

講師：藤原 保明 (筑波大学名誉教授)

はじめに

英語の発音・綴り字・語形・語句の意味・語と語の関係などは、これまで1300年以上の間に大きく変化し、それらの情報の多くは単語の中に封じ込められている。それゆえ、英語に関するさまざまな疑問は時代をさかのぼらなければ解消しないことが少なくない。たとえば、walk~walked~walkedという規則的な変化と比べて不自然なgo~went~goneという動詞の語形変化や、I am, she is, you are~I was, she was, you wereなどのbe動詞の多様な語形変化から、明確な一般化を引き出すのは困難である。一方、was~wereという過去形の数の区別がbe動詞だけにあるのはなぜかという疑問も容易には解けない。今回はこのような英語の動詞の語形変化の疑問に挑んでみた。

1 動詞の活用の規則性

英語の動詞は「活用」と呼ばれる語形変化によって人称・数・時制・法・態を区別し、過去形と過去分詞形に語尾-(e)dを付加する「規則動詞」と、それ以外の方法による「不規則動詞」に分けられる。時制は、1語で表わせるのは現在と過去だけであり、未来と完了は助動詞のwill, shall, haveやbe going toなど、別の語と組み合わせて表わされる。一方、活用はwalk~walks~walked~walked, go~goes~went~gone, sing~sings~sang~sungのように、現在と過去の時制と現在の人称と数を区別するだけであり、法と態を表わす特別な語形はない。さらに、be動詞には他の動詞にはないwas~wereという過去時制に数の区別があるので、この理由も明らかにしたい。

2 不規則動詞の規則性

「規則動詞」はallow~allowed~allowed, hope~hoped~hoped, lay~laid~laidのように過去形と過去分詞形の「語幹」に語尾-(e)dが付加され、語幹の母音は変化しないことから「弱変化動詞」と呼ばれている。一方、不規則動詞の多くでは、speak~spoke~spoken, drink~drank~drunkのように語幹の母音を規則的に変化させて過去形と過去分詞形が作られている。この方法による動詞は古英語(以下、OE)では「強変化動詞」と呼ばれ、321語が用いられていたが、このうちの65語だけがかつての特徴を維持している。

3 強変化動詞と弱変化動詞の活用

OEの強変化動詞と弱変化動詞の活用には次のような興味深い事実が含まれている。

- ① 仮定法は現在時制と過去時制の両方にあり、単数と複数とを区別していた。
- ② 「命令形」と呼ばれている「法」では、命令される側が1人と2人以上では語尾が異なっていた。
- ③ 現在分詞の語尾は-ingではなく-endeであった。

- ④ すべての過去時制に数の区別があった。
- ⑤ 使用頻度の高いcome, eat, go, run, see, takeなどの動詞は1音節語が多いが、OEの大半の動詞は2~3音節語であった。
- ⑥ 3人称・単数・現在の語尾は-(e)sではなかった。

4 弱変化動詞が不規則動詞となった理由

「不規則」とみなされているkeep~kept~kept, sleep~slept~slept, weep~wept~wept, deal~dealt [delt]~dealt [delt], lean~leant [lent]~leant [lent], leave~left~leftなどでは、不定詞の長母音は過去と過去分詞では短母音となり、語末は無声閉鎖音の[t]で終わり、その直前には子音がくるという「規則性」が認められる。これらの動詞の不定詞の長母音が過去と過去分詞で短化した原因は、語末の無声閉鎖音の[t]が「強子音」であり、強く、長く発音されることから、直前の母音がその代償として短縮したことにある。

5 無変化動詞の規則性

語形が全く変化しない「ゼロ屈折」と呼ばれるbeat~beat~beat, cut~cut~cut, rid~rid~rid, spread~spread~spreadのような動詞も「不規則」とみなされている。これらの動詞の「無変化」は動詞の活用の原則から完全に逸脱していて、しかも、該当例は少なくないことから、このような例が生じるに至った経緯を明らかにせねばならない。これらの例は、すべて弱変化動詞の過去形と過去分詞形の語尾と同じ閉鎖音の[t]または[d]で終わることから、語末の子音の無変化と関係がありそうである。

Beatと同じように、acceptも無声閉鎖音の[t]で終わっているが、語尾-edが付加され、accepted~acceptedのように規則動詞となっている。しかも、このような動詞はaccept, accumulate, acquaint, act, admit, bait, ballot, banquet, bat, bateのように、a-またはb-で始まる語だけでも数が多いことから、語尾の閉鎖音だけが「無変化」に関与しているのではないことがわかる。それゆえ、同じ閉鎖音で終わる動詞がbeatなどでは無変化になり、acceptなどでは「規則動詞」となる理由について考察したい。



茗溪・東西南北

長野茗溪会活動報告

長野茗溪会は、毎年、総会の開催を大きな事業として活動しています。

平成29年度は、松本市のホテルモンターニユ松本にて、6月25日、午前中に役員会を行い、午後から総会・懇親会を実施しました。

平成28年度の会務報告、会計報告、会計監査報告、平成29年度の役員・事務局体制、事業計画案、予算案について審議していただきました。事務局は、二年ごとに改選時期を迎えますが、今回、松本深志高校から野沢北高校に移ることとなりました。

総会には、本部から宮尾徹本部理事を来賓としてお迎えし、60名を超える会員が参加して、行われました。

会員研修として、高校教育課高校改革推進係主幹指導主事田畑邦仁様から『学びの改革 基本構想』が目指す本

県高校教育の方向性、信州大学教育学部准教授谷塚光典様から「次期学習指導要領に向けた大学・学校・地域の役割」について、お話を伺いました。

懇親会には、例年以上に若手会員の参加が増え、各テーブルで、様々な話に花が咲きました。

参加した会員の半数以上が、筑波大学出身者となったこと、総会・懇親会参加者が教員の多いことを鑑み、事務局としては、教員以外の参加者をどのように増やしていくか、また、若手会員が参加しやすい工夫等を考えております。

役員会で提案のありました支部規約の改正についても事務局で検討し、来年度の総会にかけていきたと考えています。

なお、来年度の総会は、6月24日の日曜日午後1時から、松本市ホテルモンターニユ松本で開催予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

平成29年度愛媛茗溪会

総会・懇親会報告

平成29年度愛媛茗溪会総会は、7月2日(日)に、西川潔茗溪会本部副理事長のご出席の下、23名の参加で開催されました。決して参加人数は多いとは言えませんが、年1回同窓生と再会できることを楽しみにされている方にとつては、かけがえのない時間となりました。また、総会に先立って実施された茗溪文化講演会では、松山大学教授、永野 武(筑波大学第一学群社会学類↓博士課程社会学研究科社会学専攻)氏が、「大学入試改革」という演題で、講演をされました。総会後には懇親会を開催し、昔話や近況報告に花を咲かせました。

他の都道府県茗溪会でも同様であるとは思いますが、愛媛茗溪会においても、総会への参加者が固定化されており、なかなか新規の参加が少ないのが現状です。しかし、愛媛茗溪会の火を消さないためにも、少ない人数でも必ず毎年開催していくことを念頭に置き、総会を計画・開催しています。愛媛県内では、高校や中学校の管理職に就かれる方や企業の役員に就かれる方もおり、茗溪同窓生は、県内のいろいろな場面でご活躍されています。人間関係が希薄になっていく今日、こうした同窓生の集まりは大変貴重なものであり、今後も大切にしていきたいと思っております。懇親会の最後に熱唱する宣揚歌「桐

の葉」は、いつになっても変わらないとつくづく感じています。

さて、今年には愛媛県にとつて、一大イベントが開催されました。

それは、第72回国民体育大会(愛媛(えがお)をつなぐえひめ国体)です。愛媛県での国体の開催は実に64年ぶり、しかも初の単独開催でありました。24年ぶりの天皇皇后両陛下の御来県、そして全国から約2万2千人の選手や指導者が来県し、この愛媛の地で連日熱戦を繰り広げました。選手の中には、水泳競技の池江璃花子選手や陸上競技の桐生祥秀選手も出場しました。愛媛県が目標としていた天皇杯・皇后杯の獲得はできませんでしたが、「えひめ国体」の開催は、愛媛県民に多くの感動と勇気を与えてくれました。

結びに、茗溪会のみならずのご発展を心からお祈り申し上げますとともに、今後とも愛媛茗溪会をよろしくお願いいたします。



講演する永野 武氏 (愛媛県)

平成29年度茨城茗溪会

地歴公民部会・夏期研修会報告

平成29年8月26日(土)、水戸市の「ホテルレイクビュー 水戸」にて恒例の夏期研修会を開催しました。

本会は茗溪会茨城支部の社会科学部会として1984年(昭和59年)に発足、以来毎年夏に研修会を行い、今回で第33回を迎えました。部会創設にご尽力いただいた大貫力先生や池田都實康先生など先輩方のご指導の下、地歴・公民分野を専攻した茗溪人として研修と交流を深めべく、今日まで活動を続けてまいりました。



例年、高等学校の地歴公民科教員を中心に30〜40名が参加しており、近年は新規採用教員をはじめ若手の会員にも積極的に声掛けを行い、茗溪の諸先輩方との貴重な交流の場としても機能しています。また、筑波大学教授の伊藤純郎先生にも毎回参加いただき、教員の子の会員の成長を見守っていただいております。

研修会では筑波大学に縁のある方による講演会、並びに現任教員による研究発表を行っています。

今年度の講演会では、講師に文部科学省初等中等教育局教科書調査官の三橋浩志先生をお迎えし、「ゆとり世代」を教壇に迎えるなかでの地歴科・公民科教育の方向性」と題して、変化が著しい昨今の教育界において我々がどのように研鑽をつみスキルアップをしていくべきか、深く考えさせられる有意義な講演をいただきました。また、研究発表は若手と中堅の2名による授業実践や研究の発表がありました。

研修会の後は、同所にて懇親会を行いました。三橋先生にもご参加いただき、各参加者からの近況報告などを行い、先輩後輩分け隔てなく和やかな会となりました。最後は「宣揚歌」を皆で高らかに歌い、お開きとなりました。

県内の各地で茗溪の先輩方、後輩たちが日々奮闘していることは、とても心強く感じます。これからも切磋琢磨して茨城の地歴科・公民科教育に貢献していくことを目標に、夏期研修会をさらに実りあるものとしていきたいと思っております。

岩手茗溪会活動報告

平成28年度の茗溪会岩手支部総会は1月9日に行われ

ました。岩手支部では、毎年総会の開催を大きな事業として活動しており、今回は29名が参加しました。

総会では、挨拶と代議員報告が平藤支部長からなされ、議事として事務局から会計報告がありました。

引き続き行われた懇親会では、添田均先生（昭和39年教大休）をはじめ諸先輩方から、近況等のスピーチなどもいただき、賑やかな雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができ、各テーブルで話が弾みました。和やかな時間もあつという間に経過し、最後に全員で肩を組み、高屋敷真吾氏（平成17年筑体）の声かけに合わせて宣揚歌を斉唱して、盛会のうちに終了することができました。年に一回の集まりですが、支部会員にとっては旧交を深められる貴重な機会となっております。

岩手支部の場合、構成員の多くが教員であり、近年、岩手県の教員採用数が少なかったこともあるためか、若手の構成員が少ないことが問題点としてあげられます。

今後は職場の後輩への声かけを強化し、若い会員の参加を促していきたいと考えています。また、参加しやすい雰囲気作りや会員相互の横の連携などを深め、本会の活性化を目標に掲げ努力してまいりたいと思っております。

結びに、茗溪会のみならずのご発展を心からお祈り申し上げます。

第五回・東京茗溪会

去る12月3日（日）第5回東京茗溪会総会・交流会が嘉ノ雅・茗溪館（茗溪会館）にて開催されました。今回から東京都内の支部一本化を経て、「東京都茗溪会」から「東京茗溪会」へと名称変更した初めての会となりました。

総会では高橋基之会長の挨拶の後、ご来賓の江田昌祐茗溪会理事長から、もうすぐ茗溪創基150年、再来年には東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり嘉納治五郎先生の銅像の建つ占春園を何とか整備復活させたいとのお話、石野利和・筑波大学副学長からは、国際性の大学評価が東大に続く2位であったことを受け、引き続き世界のトップレベル研究を目指す大学として今後



も進めていくという方針が示されました。

講演会は、同窓で落語界真打の三遊亭朝橋師匠にご講演いただきました。朝橋師匠は、平成13年自然科学類地球科学専攻卒業。人生の仕込みをされた後、平成18年に6代目三遊亭園橋師匠に入門、以来13年の修行を経て今年見事真打に昇進された方です。大学時代の指導教官・小田宏信先生（現青山学院大学教授）によると「豪傑の一語につき」とのこと。誠にダイナミックな学生だったようです。朝橋師匠はつかみで、筑波大学の学生寮や卒業研究の裏話、筑波大学卒業が落語界でどれだけ役に立ったか（役に立たなかったか）についての断で会場内は笑いの渦。

また、2本目の演目の相撲ネタは最近の話題と絶妙のタイミングでした。師匠の「笑いは副作用のない薬である」という断を受け、会場からは今日の大笑い3年くらい長生きできそうだと感想も寄せられました。

東京茗溪会の次回総会は、平成30年12月2日（日）の予定です。東京1万4千人の同窓が集い人脈を広げ、出会いを通して人生の幅を広げる会ですので、多くの会員の皆さまのご参加をお待ちいたします。

（事務局長・

徳田安伸）



筑波大学トピックス——筑波大学の施設

睡眠医学研究棟



所在地：茨城県つくば市天久保2-1-1
 建築面積：1,444.39㎡
 延床面積：7,995.72㎡
 鉄筋造 6階建



睡眠医学研究棟は、世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に採択された「国際統合睡眠医学研究機構」の研究拠点として平成27年7月に完成した。この事業では、睡眠覚醒を制御する仕組みの解明、睡眠調整に介入する方法の開発及び睡眠障害に関連する深い代謝疾患や神経疾患の診断・治療のための新しい戦略を促す開発拠点の構築を目指している。

研究実験施設としての機能性を最重要としながらも、研究者同士の交流を促す空間構成や森と池が残された敷地環境を最大限に活かした空間デザインなど、新たな発見や創造を生み出す世界的研究拠点に相応しい施設とした。

グローバルスポーツイノベーション棟



所在地：茨城県つくば市天久保3-1-1
 建築面積：1,022.59㎡
 延床面積：3,154.18㎡
 鉄筋コンクリート造 4階建

グローバルスポーツイノベーション棟は、国内外の体育系大学・関連組織・企業と大型連携事業（国家プロジェクト）を円滑に、かつ効果的に推進し、わが国随一の体育・スポーツ・健康分野の連携事業拠点として平成29年2月に完成した。施設内には、世界各国からの留学生等を国際スポーツ界のリーダーに育成する「つくば国際スポーツアカデミー」(TIIAS)、競技やコンディショニングに関する各種の用具・器具を開発する「スポーツR&Dコア」、次世代の健康スポーツ科学を推進する「ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター」(ARIHHP)などが配置され、2020年東京五輪・パラリンピックへの貢献も期待される。

グローバルヴィレッジ



Daiwa Lease Community Station
 所在地：茨城県つくば市天久保2-1-1



建築面積：510.36㎡
 延床面積：989.07㎡
 鉄骨造 2階建

グローバル人材育成及び国際性の日常化、日本に居ながら異文化交流が体験できる住環境を提供することを目的として、平成29年3月にGlobal Village (グローバルヴィレッジ) 7棟(310人)と、Daiwa Lease-Community Station (大和リースコミュニティステーション) が完成し、4月から運用を開始している。平成30年3月には更にGlobal Village 4棟(190人)が完成し全11棟となる。

Global Villageは留学生と日本人学生のシェアハウス型の学生宿舎となっており、交流の場となるDaiwa Lease Community Stationはイベントなど多様に利用できるホールや、日本文化を体験するための和室等も設けられている。

ヨット部55周年



2017年7月8日土曜日に嘉ノ雅 茗溪館（茗溪会館）で東京教育大学・筑波大学体育会ヨット部創部55周年を記念するパーティーおよび総会を開催いたしました。現役学生を含めて70余名の参加があり、お開きとなったあとも近隣の店で二次会、三次会と盛り上がり続け、大変盛況な集まりとなりました。

ヨット部ではこれまでも5年ごとの周年行事を茗溪会館で行ってきました。前回の50周年ではスペシャル感演出のため茗荷谷を離れてみたのですが、今回また茗荷谷に戻って来て感じたのは、やはり懐かしの地での集いは格別だということです。東京教育大学時代の卒業生の方々は13期までと、今年56期の新入生を迎えた今では少数派となっていますが、今回一番パワフルだったのは、何を隠そう東京教育大学のOBの方々でした。記念パーティーでは往年の写真の映写が行われるのが恒例となっていますが、昔の写真は5年ごとにも映写されることとなります。「またか…」と飽きられるのではないかと



の心配をよそに、いつも「懐かし」と評判です。最近では写真に写っているメンバーが揃うと、スライドの前で同じポーズをとって当時を再現し盛り上がりがあります。掲載の写真は1960年代の終わりの頃、千葉県館山にある東京教育大学北条寮のすぐ横にあるパン屋の前で撮ったモノクロ写真のスライドの前で、その時の8名全員がすべて揃い、50年近くの時を超えて同

じようなポーズを決めたワンショットです。時代は折しも70年代安保の学生運動の嵐が吹き荒ぶ頃、東京教育大学では筑波移転問題も絡み、混沌とした状況でした。当時からヨット部では新歓祭では、じかにヨットを見て触れてもらおうとキャンパス内にヨットを持ち込み展示していました。夜中にとぼちちりを食って大切なヨットを壊されないよう、安全な隠し場所を求めて重いヨットを大学内のあちらこちらと移動させながらヨットを守ったなどの苦労話を聞いています。筑波大学になってから40数年経ちますが、新歓祭でのヨットの展示は今も綿々と続いています。

また、モノクロ写真の中に北条寮の看板が見られますが、この北条寮もヨット部の歴史を語るうえで外せない場所です。ヨット部は毎年夏には北条寮で長期の合宿が行って来ましたが、北条寮は長年住込みのご夫妻により維持管理され、合宿中の学生にとつてご主人の寮長が親父代わり、賄いの奥様がお袋代わりとなり、大変お世話になってきました。そんな縁もあって卒業後も多くのOBが合宿中に訪れて来ましたが、そして、お世話になった寮長ご夫妻の名前を冠した「深谷杯」を賭けたOB vs 現役のレースが行われ、OBと現役部員の交流が行われて来ましたが、寮長はその後、津田ご夫妻、村上ご夫妻と受け継がれてきましたが、国立大学法人化の過程で北条寮のこの管理形態は廃止となりました。ヨットの艇庫を備え、ヨット部の拠点となってきた北条寮ですが、今年1月には艇庫内の物品を片付け完全退去の形となりました。現在はサンセットブリーズ保田などを運営している民間事業者によってリニューアルされ、新たな出発をしているようです。多くの思い出のある場所ですが、時代の風向きは大きく変わり、我々も新たな風を求めて舵を切らなければならぬ状況です。北条寮の片隅には嘉納治五郎先生の「芳躅舎」の石碑があります。長年その碑に見守られながら過ごしたからでしょうか、ヨット部OBの天辻康裕先輩は日本セーリング連盟オリンピック準備委員会事務局長として、また、ヨット部部長をお引き受け頂いている筑波大学体育系教授でロサンゼルスオリンピック

クメダリストの本間（元好）三和子先生は、日本水泳連盟シンクロ委員長として2020年の東京オリンピックに向け、新たな海路を開かんと奮闘中です。55周年の集まりは単にこれまでの旧交を温めただけでなく、これまで以上にこれからのヨット部の行く末、あり方について、多くのOBに問いかけ、また、新たな行動を起こす契機ともなったのではないかと感じています。何かを始め、動き出すためのエネルギーは、人が実際に集い、顔と顔を合わせることで生まれるように思います。大学の同窓会で会館をもつ大学はそう多くはありません。これからの茗溪会館での5年毎の集まりを大切に続けていきたいと思っています。

（筑波大学人間学類昭和61卒 ヨット部21期 大島久幸）



◆昭和34年卒東京教育大学体育学部女性の会

と き 平成29年10月26日(木)
 ところ 渋谷エクセルホテル東急

昨年、初めて開いた女性だけの同期会が大いに盛り上がり、一年後の再会を果たしました。「去年より若返ったね」とお互いを讃えつつ忽ち十代にタイムスリップ。全員相変わらずの健啖ぶり、終始笑い声をはじけて時の経つのを忘れ、誰が言うともなく「来年の今日再会」を約束して家路につきました。(文責：築地弥生)



◆筑波大学農林学類一期生 還暦記念同窓会

と き 平成29年11月4日(土)
 ところ 千代田区大手町「サンケイプラザ」

還暦を過ぎて久々に集まりました。見てくれはそれぞれ変わりましたが、各々が何らかの形で「農林」へのつながりを感じさせる楽しいひとときでした。(市石 博)



◆35桐陸同期の傘寿懇親会開催

と き 平成29年11月8日(水)
 ところ 筑波大学会館

東京教育大学陸上競技部昭和35年卒業生が傘寿記念の懇親会を行った。この会には特に保谷の合宿所で親しくして頂いたラグビー部の先輩であり茗溪会の理事長である江田先生が顔を出してくださいました。翌日は、大学の広報関係の方に施設を案内して頂き、陸上競技場では後輩の部員たちを激励することができた。箱根駅伝出場を応援するためのささやかな支援金を弘山コーチに手渡して一連の行事を終了した。(文責：藤井英嘉)



◆筑波大学野生動物研究会OB・OG・現役生のつどい

と き 平成29年11月14日(火)～15日(水)
 ところ 日光 湯ノ湖

創立42年、今年は現役生も参加でフィールドを歩きながら動物談義の楽しいひとときを送りました。



◆昭和58年入学 第三学群基礎工学類1,3,4クラ合同クラス会

と き 平成29年11月25日(土)
 ところ つくば国際会議場

昭和58年入学の基礎工学類1,3,4クラスの合同クラス会を行いました。これまではクラス毎の集まりでしたが、今年は卒業30周年でもあり、一緒にやろうと声掛けした結果、22名が参加。懐かしの筑波に集まり、近況報告などで大いに盛り上がりました。次回は2023年に入学40周年記念の全クラス会を企画することを確認し散会しました。(幹事：広明敏彦)



◆平成29年度東茗会例会

と き 平成29年11月26日(日)
 ところ 池袋西口「北海道」にて

東茗会は東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、筑波大学で東洋史を専攻し、都内の学校に勤務する教員とOBの親睦会です。ここ数年、筑波大学出身の出席者(後列)が東京教育大学出身者(前列)を上回るようになりました。それでも毎年11月に開かれる例会では、世代を超えていつも学生時代の昔話や勤務校の話題、さらには退職後の海外旅行の経験談で楽しく盛り上がっています。



◆昭桐会(東京教育大学教育学部教育学科昭和30年卒)

とき 平成29年4月14日(金)
 ところ 嘉ノ雅若溪館
 卒業後62年目の懇親会です。全員80歳台となりましたが、元気にしゃべり、飲み、最後に宣揚歌を歌って散会しました。卒業後60余年を経ても面影は変わらないと思いますが、念のために参加者の名前を記します。 後列左より 阿部、角谷、西ヶ谷、吉川、岸
 前列左より 指宿、高倉、緑川、杉原



◆筑波人文三期の同期同窓会

とき 平成29年6月3日(土)
 ところ 晴海グランドホテル
 毎年恒例化しつつある筑波人文三期の同期同窓会です。二次会からの参加者を含め約三十名が東京晴海の同期社長のホテルに参集。付度された社員様方より嬉しい還暦同窓会ができました。来年はことによるとリニューアル新装ホテルで？



◆平成29年度 駒場筑波農業土木同窓会 総会

とき 平成29年7月8日(土)
 ところ ホテルローズガーデン新宿
 この同窓会は、東京農業教育専門学校農業土木科、東京教育大学農学部農業工学科及び大学院農業工学専攻、筑波大学農林学類、生物資源学類及び農学研究科及び環境科学研究科、生命科学研究科等の農業土木関係の卒業生で、会の趣旨に賛同していただいた方たちで構成しています。年に一度、総会及び懇親会を開催しております。本年度の総会は、第4回生(昭和28年卒)～第36回生(昭和60年卒)までの40名の会員が集い、和やかな懇親会となりました。(同窓会事務局：持丸晴久)



◆筑波大学応援団創団30周年記念祝賀会

とき 平成29年7月16日(日)
 ところ 茗溪会館
 今年で創団30周年を迎えるにあたり、祝賀会を開催しました。筑波大学応援団・応援団桐葉・応援部WINSのOBOG現役が100名以上集まり旧交を温めました。30周年を記念し作成した大校旗を贈呈し、現役による迫力のステージで大いに盛り上がり、最後は全員で肩を組み宣揚歌で幕を閉じました。



◆昭和42年農学卒同期会

とき 平成29年9月8日(日)
 ところ 茗溪会館
 私共は毎年同期会を行っています。一年毎に都内(茗溪会館)と学友の所在地を持ち回りしています。今年には都内の年で14人が集まりました。(五味武彦)



◆農林学類3期生会

とき 平成29年10月1日(日)
 ところ 茗溪会館
 昨年にひきつづき集まることができました。総勢21名の元気な姿を見ることができ、近況も聞けて、大いに盛り上がりました。(写真：宮越(佐久間)リカ、文：渡辺(草間)悟)



茗溪学園だより

SSH活動報告

第2期SSH (H29〜33年度) 研究課題

本校SSHは、第1期(H23〜27年度)と経過措置期間を合わせて6年が経過していました。そして、今年度第2期の指定をいただき、今までの活動をさらに発展させるべくスタートを切りました。

第2期の研究開発課題は、「世界に提案できる、探究力育成を目指した茗溪学園式中高一貫カリキュラムの開発」です。その取り組みの特徴として、

- ・生徒全員が対象である
- ・探究スキルを段階的に習得できるような授業を中学1年から行う

・国内、海外でのフィールドワークなど希望者対象の様々な取り組みがある を掲げています。

学校創立以来、高校2年次の必修科目としてきた「個人課題研究」が、探究活動の集大成の一つとして位置づけられることに変化はありませんが、研究活動の質を高め、外部コンクールでの発表の機会を提供するなど、生徒の活動をサポートする態勢をより手厚くしています。

来年度の高校2年次には、カリキュラム開発の実践活動



天然記念物である「ヤクシマカワゴロモ」の観察

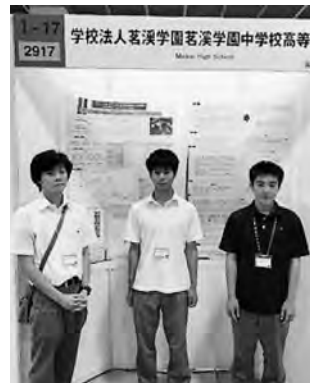
として、数学、理科において探求型の少人数講座をSSH学校設定科目として設置する予定です。

活動状況

研究発表会やフィールドワークへの参加など、夏休み中に多くのイベントに積極的に参加しましたので、以下



ネジバナの研究は実験計画と実行力が評価され優秀賞を受賞



SSH生徒研究発表会 (神戸国際会議場)

◇屋久島研修 (フィールドワーク) 7月) 埼玉県の春日部高校との合同研究で第

1期SSHの時から継続活動。本校から14名、計24名が参加。

◇H29年度SSH生徒研究発表会(8月、神戸国際会議場)発表者(高校3年男子、個人課題研究の発表)と補助(高校男子2名)が参加。研究テーマは、「コーヒーマスターは、コーヒーマスターの液

滴が液面を走る現象」でした。

◇全国高校総合文化祭みやぎ総文2017自然科学部門研究発表(8月、石巻市、仙台市) 科学部生物班高校2年グループ4名。研究テーマ「根の触覚ハツカダイコンの根にとって障害物とは何か」。昨年11月の茨城県予選で生物部門第1位となり全国大会出場。

◇第2回環境微生物系学会合同大会2017高校生による研究ポスター発表(8月、東北大学・仙台市)発表者高校女子1名。個人課題研究テーマ「ネジバナと菌根菌の関係を探る〜ネジバナの種子を発芽させるにはどうしたらよいか〜」 優秀賞受賞。

◇他に、・青少年のための科学の祭典2017全国大会(7月、科学技術館・東京) 科学部生物班。・産業総合研究所一般公開/中高理科系クラブ研究発表(7月、産総研・つくば市) 科学部物理班および生物班。・産総研公開「特別企画歴史テーマを巡る」イベントの補助・手伝い活動を科学部無線班が行った。

これら活動では、発表経験を積むこともできることから、多くの他校生との交流や先輩研究者から助言をいただくなど、貴重な時間を過ごすことができました。

高校ラグビー6年連続23回花園出場

ここ数年来安定した力を示している高校ラグビー部は、11月19日に行われた全国大会県予選決勝戦を43対14というスコアで勝利し、第97回全国高校ラグビー大会(12月27日〜東大阪市花園ラグビー場)への出場を決めました。本校高校ラグビー部の全国大会初出場は1985年第65回大会で、創部(=学校創立)7年目のことでしたが、以来回を重ねて23回となりました。本チームの主将など、父が初出場の時のメンバーだった選手が2名、父または母が本校卒業生という選手が3名、計5名が試合に出場していました。歴史を重ねてきたことを実感します。再び花園に茗溪旋風を巻き起こしていただけることを期待しています。



県大会決勝戦(清真学園との決勝戦対戦は7年連続19回目):前半スコアは8-0、清真学園の厳しいタックルに攻撃が寸断された

部活動など結果報告(9〜11月)

◎中学ラグビー部:第8回全国中学大会(9月)4位

【高校県新人大会結果】

◎柔道:女子個人57kg級と63kg級2名の選手が優勝

◎体操:女子個人2位

◎バドミントン:男子ダブルス優勝3位4位を茗溪で占める、女子ダブルス2位、男子団体優勝(2年連続4回目)

【中学県新人大会結果】

◎剣道:男子団体2位、女子個人優勝

◎体操:男子団体優勝、個人優勝と2位、女子団体3位

【文化部】

◎写真部:県総文祭写真展優秀賞5年女子(関東大会へ出展)

【その他】

◎WFPチャリティエッセイコンテスト 中高生部門佳作4年女子(20位/19075作品中)

追悼録 (敬称略)

吉野 正敏 筑波大学名誉教授 29・7・4 妻 吉野 和子
 〒020-0585 岩手郡雫石町長山松森28-9
 神田 民枝 19大教 29・11・8 長男 神田 剛
 〒659-0013 芦屋市岩園町33-17
 井上 正久 20農教 29・10・16 長男 井上 要一
 〒581-0847 八尾市東山本町6-4-19
 江藤 恵治 22体 29・3・27 三女 江藤 紀子
 〒869-4201 八代市鏡町鏡村1152-3
 阿部 清市 23体 29・9・5 長男 阿部 誠
 〒984-0825 仙台市若林区古城3-18-9
 町田 一 23農教 29・8・14 妻 町田 睦子
 〒370-3342 高崎市下室田町848
 福井 守 24大教 29・4・13 妻 福井 澄子
 〒243-0041 厚木市緑ヶ丘2-10-6
 三科 辰治 24大教 29・8・1 妻 三科 和子
 〒157-0076 世田谷区岡本1-30-18
 井上 勤 24大動 29・10・18 妻 井上れん子
 〒183-0052 府中市新町1-50-1
 新垣 進一 24文二 27・9・27 妻 新垣 弘子
 〒145-0066 大田区南雪谷4-11-10
 金子 泰三 24文五 29・3・11 妻 金子 郁子
 〒190-0003 立川市栄町1-25-12
 船崎 和夫 24理四 29・5・24 次女 船崎みさを
 〒136-0071 江東区亀戸9-9-1-715
 宮本 和正 24体専 29・2・2 長女 石毛 京子
 〒194-0041 町田市玉川学園1-16-18
 大石 保夫 24農教 29・11・8 長男 大石 健夫
 〒437-0212 周智郡森町向天方1263-11
 前田 昇 25大地 29・8・20 長男 前田 一郎
 〒569-1031 高槻市松が丘1-18-3-303
 加藤 精英 25文四 29・5・3 次男 加藤 博
 〒133-0056 江戸川区南小岩5-7-23
 北見 昭 25文四 29・1・24 妻 北見 松美
 〒104-0052 中央区月島4-17-1-1018
 増田 栄次 25文五 29・4・26 長女 根田 和子
 〒176-0002 練馬区桜台4-19-6
 倉持 利郎 26体 29・10・31 長男 倉持 範夫
 〒300-2416 つくばみらい市東橋戸91
 古川 家道 26体専 29・2・21 娘 古川かおり
 〒702-8044 岡山市福島4-15-10
 佐藤 敬信 27文四 29・5・29 妻 佐藤ユキ子
 〒307-0001 結城市結城1701-3

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・遺族住所・氏名

柳沢 二郎 28教大西史 29・9・25 妻 柳沢 節子
 〒064-0823 札幌市中央区北四条西25-2-1-903
 中島 秋夫 28教大農経 29・4・12 長女 齊藤 陽子
 〒658-0046 神戸市東灘区御影本町2-9-21-801
 高村 良脩 28教大健 29・8・9 長男 高村 政之
 〒248-0014 鎌倉市由比が浜2-22-1
 増田 茂 29教大英 29・1・18 妻 増田 徳恵
 〒202-0002 西東京市ひばりが丘北2-4-9
 鈴木 正義 29教大心 29・3・29 妻 鈴木 朋子
 〒041-0841 函館市日吉町2-38-15
 伊奈 太 29教大数 29・9・12 妻 伊奈 昌子
 〒195-0053 町田市能ヶ谷1-1-5-701
 大塚 浩介 30教大日史 29・10・18 長男 大塚 浩平
 〒990-0034 山形市東原町4-3-14
 長谷川 栄 30教大教 28・9・18 妻 長谷川志奈
 〒181-0016 三鷹市深大寺3-21-12
 永井 輝男 30教大地 29・10・3 1 妹 西隈 貞子
 〒231-0806 横浜市中区本牧町1-59
 澁谷 芳明 31教大國 29・5・7 妻 澁谷美智子
 〒963-8022 郡山市西ノ内2-13-18
 野口 文人 31教大数 29・3・24 妻 野口 常子
 〒940-0845 長岡市花園3-3-3
 滝沢 貞夫 32教大國 28・10・20 妻 滝沢富美子
 〒380-0802 長野市上松1-15-10
 上野 美之 33教大英 28・4・22 妻 上野 郁子
 〒930-0898 富山市桜谷みどり町1-1-13
 門井 昭夫 34教大英 28・8・24 妻 門井 淑子
 〒202-0004 西東京市下保谷2-8-6
 末永 政治 34教大体 27・4・16 妻 末永 和子
 〒890-0082 鹿児島市紫原5-45-3
 鈴木 重久 36教大教 29・7・13 妻 鈴木 篤子
 〒241-0005 横浜市旭区白根6-22-5
 小林 礼子 37教大数 29・8・27 夫 小林 包昭
 〒146-0094 大田区東矢口3-8-22
 浜 和彦 39教大心 28・11・26 妻 浜 富子
 〒061-1141 北広島市青葉町3-3-1
 依田 武 40教大法政 29・9・29 妻 依田 雅子
 〒651-1212 神戸市北区筑紫が丘7-5-1
 高山 俊彦 49教大健 29・5・17 母 高山 恵子
 〒950-0824 新潟市東区中島2-3-25



Service Safety Sincerity
 あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO
 Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹 (学校法人 若漢学園理事)

つくば本部 / 茨城県つくば市ニの宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若漢会担当: 常務執行役員 人事部 岡本 俊一
 (昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

OZONE 大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究科修了)

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tasukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

平成29年秋の叙勲

おめでと〜うございませ〜 (敬称略)

瑞宝重光章

浅島 誠 42教大動

瑞宝中綬章

岡田 厳太郎 42教大院修植

西垣 完彦 34教大休

永田 靖章 36教大休

瑞宝小綬章

佐藤 文男 45教大地

小林 崔 46教大数

結城 正斉 46教大化

平成29年度高齢者叙勲(9月)

瑞宝小綬章

小島 己三夫 26農教

(東京)

(静岡)

(愛知)

(愛知)

(新潟)

(新潟)

(富山)

(静岡)

広報

就職受験対策研修会

教職員採用試験を受ける筑波大学生のための研修会を今年も次の要領で開催いたします。

期間 平成30年3月4日(日)〜6日(火)

会場 筑波大学内 体芸棟

定員 50人(先着)

資料代 7,000円のところ茗溪会が5,000円

補助

受付 平成30年2月1日(木)〜2月28日(水)

茗溪会筑波事務所にて

訂正

前号(平成29年秋号)で誤りがありましたので訂正いたします。

P1 「特集」グラビア 上段 右下写真

(正) 筑波大学准教授 山口 香さん

(誤) 筑波大学準教授 山口 香さん

P9 平成29年度「追悼のつどい」下段 2行目

(正) 夫は福岡出身で東京高師から東京文理科大学を…

(誤) 夫は熊本出身で師範学校を…

大学を…

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお問い合わせいたします。

表紙の言葉 デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

今回は2017年の雙峰祭(11月5日)の写真を選んだ。写真には写っていないが、右手、図書館前の仮設舞台では、揃いの派手な衣装のグループが、後夜祭の前座なのか、照明を浴びて元気いっぱい歌ったり踊ったりを始めていた。普段、私は予め場所を決めて撮影に向かうが、この日は学生部T・A・C・Tのブースに顔をだす約束を果たすため、終了間際に駆けつけたら、この光景に出会った。「茗溪」正月号の表紙としては、時機はずれで、しかも朝日ではなく日没間際である。しかし、晴天に恵まれた大学祭の余韻のようなものが出ていればと考えた。加えて、鈍く重苦しい茶色の校舎がこの時は赤みを帯びて美しくかった。写真の暗部をよく見て頂くと、実は多くの学生や来訪者が行き交っており、並ぶ白いテントではサークルや部が様々な店を開き、まだまだ賑わっていた。

編集後記

新年明けましておめでと〜うございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年夏号から始まった特集「人間 嘉納治五郎を語る」も本号の教育者としての実像に焦点を当てた第3回をもって終了となります。

これらの特集記事により嘉納治五郎先生に改めて興味をもたれた方も多くいらっしゃると思います。筑波大学出版会より「**気概と行動の教育者 嘉納治五郎**」という書籍が出版されています。本号27頁上段の筑波大学出版会の広告欄に掲載されておりますので参考にしてください。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを前に、NHKの大河ドラマでも2019年1月より「いだてん〜東京オリムピック噺〜」と題して、オリンピックに初参加した男、金栗四三が取り上げられるそうです。(8頁参照)

平成30年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

TEL 03-3394-1151

FAX 03-3394-1136

FAX 03-3394-1767

Email info@mekeior.jp

URL http://www.mekeior.jp

郵便振替記号番号 00150-14977

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台1-1-1

TEL 029-850-1044 筑波大学・大学会館内

FAX 029-850-1045

Email tsujimnu@mekeior.jp

印刷 東京都文京区関口1-29-10

山浦印刷株式会社

生誕150周年記念出版委員会編

気概と行動の教育者 嘉納治五郎

柔道の創始者として知られる嘉納治五郎は、明治・大正期の教育改革に貢献した偉大な教育者、運動部や文化部などの課外活動の導入、中等教育、教員養成にも新たな施策を取り入れるなどの教育改革を一貫して推進した。留学生の受け入れ、オリンピックの招致などにも尽力。嘉納治五郎の実像に迫り、そのレガシー継承の指針を探る。

- 第一章 嘉納治五郎の生い立ちと柔道
 - 第一節 学びの系譜
 - 第二節 講道館柔道の創設と理念
 - 第三節 女子柔道の取り組み
 - 第二章 教育者としての嘉納治五郎
 - 第一節 嘉納の教育改革 (コラム) 孔子祭の復活
 - 第二節 体育・スポーツの発展
 - 第三節 大学への昇格運動
 - 第四節 留学生教育
 - 第三章 国際人としての嘉納治五郎の活躍
 - 第一節 西洋世界と嘉納治五郎
 - 第二節 ヨーロッパにおける柔道普及と「柔道世界連盟」構想
 - 第三節 オリビックの東京への招致
 - 第四章 現代への継承
 - 第一節 オリビックへと至る柔道の歩み
 - 第二節 日本体育協会と生涯スポーツ
 - 第三節 嘉納思想への回帰
 - 第四節 ヨーロッパにおける武道への期待
 - 第五章 人間 嘉納治五郎
 - 第一節 生徒との交流 (コラム) 嘉納治五郎と諸橋轍次
 - 第二節 IOC委員との交流
- 特別寄稿 嘉納治五郎のレガシー
——スポーツ、国際交流、教育
嘉納治五郎年譜



A5判上製 2800円+税
ISBN 978-4-904074-19-0

筑波大学出版会
http://www.press.tsukuba.ac.jp/

http://pub.maruzen.co.jp/ TEL:03-3512-3256 FAX:03-3512-3270 発売：丸善出版株式会社

株式会社 阿部兄弟建築事務所
http://abeoffice.co.jp

〒101-0032
東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
代表取締役 荒井 豊人 (昭和57年 筑基工)
TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント
福岡経営労務事務所
〒125-0042 葛飾区金町3-27-3
TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所長 福岡 一雄 (32教大法政)
社会保険労務士

大塚英語教育研究会
入会歓迎！英語(文学・語学・教育)に興味ある方
筑波大文京校舎で月例の英文講読・講演等を実施
ホームページ http://otsuka.news.cocan.jp/

代表 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)
E-mail: yyysstpf@mail.accsnet.ne.jp

株式会社 十和観光
代表取締役 井坂 信洋

URL http://www.juwa.com E-mail:travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～
http://tsukubaway.com/

株式会社 KTAJ
代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡 2004年卒)

ASCENT
アセントツアー

スキューバダイビングの **アセントツアー**
東京都知事登録旅行業3-3443号
東京都港区赤坂6-13-19-502 03-3560-3381

取締役社長 川上 雄笹 (昭和45年 農芸化学卒)
http://ascent.co.jp/ kawakami@ascent.co.jp

印刷・製本までトータルに対応
株式会社 ケエスアイ

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1 東京フジビル502号室
TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669

株式会社 長谷工 コーポレーション
HASEKO

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)1578

常務執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

つくばでの宿泊・研修に

ご家族で、お仲間
最大収容180名、お一人3,700円から
茗溪会員とご家族に割引あり
研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
シングル145室ツイン5室和室5室/研修室2室(120・40名)
和室も研修室として利用可(20畳、10畳)
館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等(数名から80名まで)

アクセス 秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
●バス/「筑波大学循環」3丁目「筑波メディカルセンター前」下車
徒歩8分 ●つくば駅からタクシー/5分

一般財団法人筑波学都資金財団
筑波研修センター
〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886
http://www.meikei.or.jp/~center e-mail:center@meikei.or.jp

(株)ブライダルは
筑波大学同窓会会員の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

40年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料100%OFF)にてお世話させていただきます。

筑波大コース

登録料
100%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥194,400 etc.*

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥356,400 etc.*

※価格は会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

詳しくはホームページをご覧ください。

(株)ブライダル

検索



ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>



1978年創業
株式会社

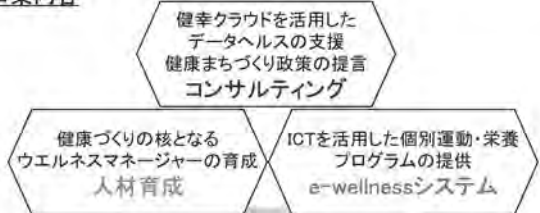
ブライダル

東京本社

〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
Network / 東京・横浜・湘南・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

TWR
「日本全国を元気にする！」
超高齢化社会に伴う健康課題に対して、
筑波大学の研究成果に基づく健康サービスを提供しています。

事業内容



ビジネスモデル



株式会社つくばウェルネスリサーチ <http://www.twr.jp/>
〒277-8519 千葉県柏市若柴178番地4 KOIL505
Tel: 04-7197-2360 Fax: 04-7197-2361

■採用情報：新卒・中途採用など様々な人材を求めています！詳細はHPをご覧ください



リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群(2016年開設)

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
学長 三谷 高康
入試事務室相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】
〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758
桜美林大学インフォメーションセンター
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



中教審のキーパーソンが語る、授業と学校の不易とは。

教育の羅針盤 5

新しい教育課程における
アクティブな学びと 教師力・学校力 無藤 隆著



文部科学省中央教育審議会委員・同教育課程部会委員、
白梅学園大学大学院特任教授
四六判 / 272ページ 本体1,800円+税

前回改訂（習得—活用—探究）と今回改訂（資質・能力, アクティブ・ラーニング, カリキュラム・マネジメント）の重なりやつながりをていねいに解説する。

- 目次 第1章 新しい教育課程の基本的な考え方とは
- 第2章 学校の果たす役割と「学校力」
- 第3章 新教育課程で求められるアクティブな学び
- 第4章 授業研究と教師の力量形成
- 第5章 確かな学力の確保と目標準拠評価のあり方

①「教えて考えさせる授業」を創る	市川伸一著	本体1,400円+税
②答えなき時代を生き抜く子どもの育成	奈須正裕・諸富祥彦著	本体1,600円+税
③「自分事の問題解決」をめざす理科授業	村山哲哉著	本体1,500円+税
④「コンピテンシー・ベース」を超える授業づくり	安彦忠彦著	本体1,500円+税

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>



TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519
ブックライナーで注文可 ☎0120-39-8899

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です
- ◆ 国際バカロレア (IB) 認定校です
2017年4月からIBDP課程開始
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です



SSH活動報告会

「SS研究・個人課題研究発表会」
(後援：筑波大学)開催のお知らせ

期日：平成30年2月21日(水)

会場：筑波大学学生会館

内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究(優秀研究)口頭発表・ポスター発表、
ほかにSSH活動成果報告
一般公開いたします。

(詳細は下記メールでお問い合わせください)



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)